

## 令和2年度地域懇談会 結果概要

## 1 地域懇談会の目的

福島県総合計画「ふくしま新生プラン」及び福島県復興計画の推進に向け、各地域で多様な立場の県民の方々から意見を聴取し、その意見を地域別の主要施策(第4章)をはじめ、政策分野別の主要施策(第3章)、重点プロジェクト(第5章)等の進行に活用する。

## 2 懇談テーマ

- (1)テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など  
 (2)テーマ2(県全体の課題) 新型コロナウイルス感染症が本県に及ぼす影響について

## 3 開催地・日時

| 開催地域               | 日時・場所  |
|--------------------|--|
| (1) 県北地域           | <p>[日時] 令和2年9月7日(月)13:15～15:15<br/>           [会場] 福島県庁本庁舎2階 第一特別委員会室<br/>           [主催] 県北地方振興局<br/>           [意見発表者]<br/>           ・大友 久美子 (福島県指導農業士、福島市認定農業者)<br/>           ・亀岡 さとみ (一般財団法人障がい者福祉支援研究所 代表理事)<br/>           ・古渡 一秀 (学校法人まゆみ学園 理事長)<br/>           ・武藤 正敏 (特定非営利活動法人 ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会 相談役)<br/>           ・吉田 秀政 (一般社団法人福島市観光コンベンション協会 事務局長)<br/>           ・渡邊 武 (県北商工会連絡協議会 会長)</p> |
| (2) 県中地域<br>※WEB会議 | <p>[日時] 令和2年9月9日(水)14:30～16:30<br/>           [会場] -<br/>           [主催] 県中地方振興局<br/>           [意見発表者]<br/>           ・小澤 啓子 (農業法人ふるさと工房おざわふぁ～む 取締役)<br/>           ・久保田 健一 (一般社団法人Switch、株式会社Shift 代表)<br/>           ・熊田 善友 (公益社団法人 須賀川青年会議所 理事長)<br/>           ・二瓶 一嘉 (株式会社二嘉組取締役副社長、福島県建設業協会青年部)<br/>           ・芳賀 育実 (天栄村移住コーディネーター)<br/>           ・渡辺 由紀 (三春町立三春病院 事務長)</p>                        |
| (3) 県南地域           | <p>[日時] 令和2年8月20日(木)13:30～15:30<br/>           [会場] 白河合同庁舎 大会議室<br/>           [主催] 県南地方振興局<br/>           [意見発表者]<br/>           ・角田 千恵子 (難病支援ボランティア ゆいの会 会長)<br/>           ・金澤 良一 (カナザワ建具店 二代目)<br/>           ・今野 登志子 (親業サークル“輝々” 代表)<br/>           ・高木 千春 (さめがわ豆新聞社 代表)<br/>           ・水戸 勘十 (株式会社未来制御 代表取締役)<br/>           ・八槻 純子 (八槻都々古別神社 宮司)</p>   |
| (4) 会津地域           | <p>[日時] 令和2年8月27日(木)13:30～15:00<br/>           [会場] 会津若松合同庁舎 新館2階 大会議室<br/>           [主催] 会津地方振興局<br/>           [意見発表者]<br/>           ・曾根 佳弘 (福島県中小企業同友会会津地区 会長、株式会社三義漆器店 代表取締役)<br/>           ・佐藤 富次郎 (会津喜多方商工会議所 会頭、(株)河京 代表取締役社長)<br/>           ・木本 真司 (福島県病院薬剤師会 理事)<br/>           ・高橋 明子 (喜多方市教育委員)<br/>           ・長谷川 祥子 (一般社団法人TORCH 代表理事)</p>   |
| (5) 南会津地域<br>※書面開催 | <p>[日時] -<br/>           [会場] -<br/>           [主催] 南会津地方振興局<br/>           [意見発表者]<br/>           ・浅沼 秀俊 (福島県建設業協会田島支部 支部長)<br/>           ・金子 政彦 (株式会社金子牧場 代表取締役)<br/>           ・斎藤 幹子 (只見農産加工企業組合「げんき村」)<br/>           ・関根 健裕 (関根木材工業株式会社 代表取締役)<br/>           ・馬場 康徳 (特定非営利活動法人あたご)</p>   |

| 開催地域              | 日時・場所  |
|-------------------|--|
| (6) 相双地域<br>※書面開催 | <p>[日時] -<br/>[会場] -<br/>[主催] 相双地方振興局<br/>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤 佳枝 (しんちの子育て考え隊 代表)</li> <li>・管野 貴拓 (相馬市松川浦観光振興グループ 事務局長)</li> <li>・一関 宙 (Next Commons Lab南相馬 チーフコーディネーター)</li> <li>・高田 吉弘 (一般社団法人おおくままちづくり公社 事務局長)</li> <li>・関 孝男 (株式会社あぶくま川内 (いわなの郷))</li> <li>・古谷 かおり (木戸の小料理 結のはじまり 代表)</li> <li>・佐々木 孝 (原町商工会議所 専務理事)</li> <li>・清水 裕香里 (特定非営利活動法人Jin 代表)</li> <li>・玉根 幸恵 (社会福祉法人広葉会特別養護老人ホーム リリー園 施設長)</li> </ul> |
| (7) いわき地域         | <p>[日時] 令和2年9月1日(火)13:30~15:30<br/>[会場] いわき合同庁舎南3階 大会議室<br/>[主催] いわき地方振興局<br/>[意見発表者]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芳賀 正道 (いわき農業青年クラブ連絡協議会 会長)</li> <li>・立原 めぐみ (いわき商工会議所青年部 会長)</li> <li>・園部 義博 (特定非営利活動法人 地域福祉ネットワークいわき 事務局長)</li> <li>・小山 いずみ (特定非営利活動法人 TATAKIAGE Japan 理事・ディレクター)</li> <li>・高梨 幸司 (特定非営利活動法人みんぷく スーパーバイザー)</li> <li>・鈴木 三則 (いわき市漁業協同組合 副組合長理事兼四倉支所長)</li> </ul>   |

【主な意見】懇談テーマ1(地域の課題) 地域の課題や必要な施策・取組の方向性など

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|----|------|-------|--|-----------|
| 1  | 県北地域 | 意見発表者 | 南会津の南郷地区のように、移住後にゼロから農業を始めても生活できる収入が確保できるようなモデルケースを県北地域でも作ってほしい。   | 農林水産業     |
| 2  | 県北地域 | 意見発表者 | 6次化の販路獲得のための補助を含めた支援について、現在農業をしている方や新規就農者の将来に繋がるものにしてほしい。  | 農林水産業     |
| 3  | 県北地域 | 意見発表者 | 新型コロナウイルスの影響で、家庭で過ごす時間が増え、親の負担が大きくなったことで、虐待に繋がっているというケースもあると聞いている。今後は、親の心のケアや相談窓口のシステム化が必要である。   | 結婚・出産・子育て |
| 4  | 県北地域 | 意見発表者 | 災害が発生した際は、子どもや妊婦さんの居場所を確実なものにしないと、復旧を進めることはできない。今後、災害に強い県を目指す上で、地域で一時保育を確実にできる体制づくりが必要である。   | 結婚・出産・子育て |
| 5  | 県北地域 | 意見発表者 | お年寄りや子どもたちはもちろん、働き盛りの人たちの健康診断を徹底してほしい。   | 健康・医療・福祉  |
| 6  | 県北地域 | 意見発表者 | 福島県産の農産物は線量検査が徹底されているものの、他県産の基準値超えの山菜がフリーマーケットに出品されるなど、他県産が放置されている。県民の健康を守るためにも、他県産の農産物の検査について、方向性を決めてほしい。   | 風評・風化     |
| 7  | 県北地域 | 意見発表者 | 過疎・中山間地域では、1人の若者が集落に入ることによって、どれ程地域の活性化に繋がるのを実感している。人の交流、移住定住の促進にしっかり取り組んでほしい。福島県を理解してもらい、関心を持ってもらうため、教育旅行の誘致も大切と考える。                                     | 定住        |
| 8  | 県北地域 | 意見発表者 | 何も知らない土地で暮らし、農業をするには資金的な援助が重要であることから、新規就農者への支援事業を復活してほしい。  | 農林水産業     |
| 9  | 県北地域 | 意見発表者 | 森林資源の活用のため、ペレットやチップ、薪などを加工する企業の誘致を積極的に進めてほしい。温暖化に逆行すると思われるが、再生できるメリットの方が高いと考える。  | 農林水産業     |
| 10 | 県北地域 | 意見発表者 | 風評に関する調査を独自に行った結果、既存の調査結果より、風評は依然大きく、実は福島県民の数字が一番大きいものであった。風評が常態化、常識化、固定化されつつあることを認識するとともに、風評に対する県民の感情が悪化するのではないかと懸念する。県独自で調査を実施し、どのような対策が必要であるか考えてほしい。  | 風評・風化     |
| 11 | 県北地域 | 意見発表者 | 新型コロナウイルス感染症の影響で、農産物の物産交流が封じられているが、ふるさと納税は最大最良のオンラインメディアである。基礎自治体の取組ではあるものの、他のオンラインビジネスをする前にふるさと納税に取り組んでほしい。   | 風評・風化     |
| 12 | 県北地域 | 意見発表者 | 風評・復興から創生に切り替わる福島県においては、既に10年間取り組んできた中国地方、九州地方の地方創生に関する事例について、メタ比較によりしっかり調べてほしい。   | 地域づくり     |
| 13 | 県北地域 | 意見発表者 | 地域の中での最大の課題は、人口減少、少子高齢化の中で雇用を守っていくことであり、企業誘致による大きな雇用創出の実態はあるものの、地域の中で新たに雇用を生み出すことも重要であり、地場産業の振興が必要と考える。  | 産業・雇用     |
| 14 | 県北地域 | 意見発表者 | 地場産業を興す上では、農商工が一体となって取り組むという視点が必要である。農商工という括りの中では、よく「6次化」という言葉が使われるが、地場産業的なものを何か作り上げていくことが重要と考える。また、新しいことにチャレンジする人への起業・創業に対する直接的な支援が地場産業や地域の振興に繋がるものとする。 | 産業・雇用     |
| 15 | 県中地域 | 意見発表者 | 石川町は、中山間地域であるため、耕作面積の区画も小さく、大型機械も使用が難しい。そのため、国などが推進する大型機械の導入や、スマート農業をする条件には、まだまだ難しく、課題がある  | 農林水産業     |
| 16 | 県中地域 | 意見発表者 | 近年は担い手不足で、耕作放棄地が増えている。理由の一つは、老朽化した機械の入れ替えにかかる経済的な負担などで、土地はあっても、農業を継続し難いためである。  | 農林水産業     |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等   | 分野        |
|----|------|-------|---|-----------|
| 17 | 県中地域 | 意見発表者 | 農業法人が耕作するのは、耕作条件が良いところであり、条件が悪い所はどうしても手がかけれられない。そのため、耕作放棄地が年々、特に山間部のところは多くなっているというのが現状。そのため、個人で頑張っている農家への支援がもう少しあれば、やる気になる若者が増え、耕作放棄地の解消につながる。<br>新規就農者を増やすだけではなくて、代々家を守ってきた零細農家を大事にしていくような施策があればいいと思う。 | 農林水産業     |
| 18 | 県中地域 | 意見発表者 | 以前から、担い手・新規就農者への支援、地域産業6次化への支援、グリーンツーリズムへの支援などをお願いしてきた。<br>県には色々とう工面していただいたことが、多々あったことについて、お礼を申し上げるとともに、今後とも支援を宜しく願いたい。   | 農林水産業     |
| 19 | 県中地域 | 意見発表者 | 市町村が合併した地域では、どうしても面積が広いので、余分な経費がかかってしまう。理想論にはなってしまうが、人口が拡散している地域に関しては、スマートシティ化みたいなのが理想である。また、このような地域では、移動手段が車しかないのので、自走を伴わない公共交通手段(バスやデマンド交通)が必要である。  | 地域づくり     |
| 20 | 県中地域 | 意見発表者 | 耕作放棄地というのが、今この地域の課題。耕作放棄地が使いにくい状態で点在している。移住希望者のツアー等で新規就農を希望される方もいるが、耕作放棄地を整備しないと、新しい方に譲渡したり、貸したりすることが難しい。   | 地域づくり     |
| 21 | 県中地域 | 意見発表者 | 地域の人材育成については、地域ならではの視点をどのように打ち出すかが、大学がなかったり、高校が限られている田舎では課題である。この地域はエッジが効いた教育方針に特化しているなどの特徴を意図的に作った方が、この地域に移住したいという人が増えるのではないかとと思う。   | 地域づくり     |
| 22 | 県中地域 | 意見発表者 | 地域課題を解決する地域事業者(企画会社、地域商社)に対して、事業展開資金の補助や、または、新たな生業創出・人材育成のための事業の発注など、自治体等に支援いただければ、地域と地域事業者が成長をともにしていける。  | 地域づくり     |
| 23 | 県中地域 | 意見発表者 | 明るい豊かな社会というのを考えた時に、安心して仕事をして、そこに住んでいけるというのが重要。人がいなければ、全てにおいての生活の基盤が成り立たない。<br>そこで、そこに住む人、地域の人材の育成というものが重要。<br>子供のうちに青少年の健全育成という形で、次代を担う子供たちが、地元で様々な体験活動を通して、地元の魅力を知ることが大切。                              | 産業・雇用     |
| 24 | 県中地域 | 意見発表者 | 移住の促進について、やはり福島に魅力を感じて人々が増えなければ全てにおいて商業も産業も進展はない。<br>従って、魅力ある地域づくりを具現化する必要がある。<br>そういう活動を通して、福島の良さを外部に発信し続けるということが、継続的に必要となる。   | 産業・雇用     |
| 25 | 県中地域 | 意見発表者 | 人を育てていくというところが、やはり、どの地域でも共通の課題である。  | 地域づくり     |
| 26 | 県中地域 | 意見発表者 | 近年、台風やゲリラ豪雨等により、道路・河川施設等で大きな災害が発生している。<br>短時間で大雨が降るなど、今までとは異なる状況に対応し、道路・河川整備などの国土の強靱化が急務となっている。   | インフラ復旧・整備 |
| 27 | 県中地域 | 意見発表者 | 道路・河川の長寿命化を考えると、産学官での取組が必要。<br>産学官連携を進めることによって、地元企業への学生の就職に繋がっていく。  | インフラ復旧・整備 |
| 28 | 県中地域 | 意見発表者 | 東京からの流れができてきている中で、若者世帯を戦略的に受け入れる体制が大切だと考えている。   | 定住        |
| 29 | 県中地域 | 意見発表者 | 農業は大規模化を支援する施策が多いが、移住希望者は、小さくても兼業農家をやりたいという方が多いので、そういう方を支援するような施策が必要と思う。  | 定住        |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野       |
|----|------|-------|--|----------|
| 30 | 県中地域 | 意見発表者 | 福島を自然を好きになってくれるよう、自然体験など子どもたちの教育が必要であり、全ての市町村に、そういった子供たちを受け入れる団体ができれば良いと思う。  | 定住       |
| 31 | 県中地域 | 意見発表者 | 高齢化が急速に進んでおり、認知症の高齢者も増えてきている。2025年問題や2040年問題などで医療・介護需要が増える。65歳以上の高齢者の5人に1人が認知症になるともいわれており、高齢化が進む一方で、支える世代が少なくなることから、地域包括ケアシステムの構築や、健康長寿への取組がますます重要となる。 | 健康・医療・福祉 |
| 32 | 県中地域 | 意見発表者 | 高齢者に対する支援では、高齢者雇用を促進したり、地域の中でボランティア活動して、生きがいを持って地域と繋がっていただくということが必要だと思う。   | 健康・医療・福祉 |
| 33 | 県中地域 | 意見発表者 | 病気とか、障害とか、色々な課題があっても、生活とか就労ができる環境をしっかりと作っていかなくてはならない。<br>癌の方、慢性疾患のある方、医療的ケア児を持つ親、引きこもりの方など、社会的に取り残されてしまうような方を大事にして、社会の担い手になれるような支援というのが、ますます必要になる。     | 健康・医療・福祉 |
| 34 | 県中地域 | 意見発表者 | 不登校とかいじめられてるとかではないけれども、学校に馴染めなかった子が、学校ではないコミュニティができるような機会や活動があればいいと思う。   | 健康・医療・福祉 |
| 35 | 県南地域 | 意見発表者 | 難病の方々が外に出るきっかけをつくる支援をしているが、ボランティアの人数が少なく、福祉に対する予算も減らされてきている。   | 健康・医療・福祉 |
| 36 | 県南地域 | 意見発表者 | 県南地方には難病の専門医が少ないため、福島や郡山の病院へ行かなければならず、大変負担が大きい状況にある。   | 健康・医療・福祉 |
| 37 | 県南地域 | 意見発表者 | 組子細工はすごく細かく女性向きの仕事であり、ここ5、6年の間に、静岡県や和歌山県から女性が組子細工の見学に来ている。購入者も女性が多く、ビジネス上、女性目線で考えることは大事であることから、職人の世界でも女性の活躍の場はもっと広がるのではないかと。                           | 産業・雇用    |
| 38 | 県南地域 | 意見発表者 | 東白川郡は、八溝山系の有名な土地ですごく良質な木材を生かして、ものづくりをしていけば、若い人が少しずつ集まるのではないかと。   | 産業・雇用    |
| 39 | 県南地域 | 意見発表者 | ワークショップや職業訓練校の木工科等の教育施設が福島県内にはないので、行政でバックアップして欲しい。   | 産業・雇用    |
| 40 | 県南地域 | 意見発表者 | 子供たちの自己肯定感が低く、そこを育んでいく必要がある。根本的には幼少期からの子供たちの家庭教育で築かれていくので、親子間でのコミュニケーションのスキルを身につけてもらい、自己肯定感を高めながら相手のことも尊重できるような人になれば、社会人になったときに堂々と主体的に生きていけるのではないかと。   | 教育       |
| 41 | 県南地域 | 意見発表者 | 起業するに当たり、いろいろな補助金を探したが、希望した時期に使える補助金がなかった。使いたいときに使える補助金が必要。  | 産業・雇用    |
| 42 | 県南地域 | 意見発表者 | 地元根づいて、地元をよくしたいと思う若者は、たくさんいると思うので、後押しする施策が絶対必要だと思う。  | 産業・雇用    |
| 43 | 県南地域 | 意見発表者 | 村にはかなりの空き家があるが村のHPにある空き家バンクは登録物件がない。空き屋バンクが活用されていないのはすごくもったいないと感じているので県が主体となって空き屋バンクの構築をしてほしい。   | 定住       |
| 44 | 県南地域 | 意見発表者 | 産業人材育成について、新たな産業に必要なとされる技術を学ぶ専修学校が県南地域にない。県南地域を中心にさまざまな分野で活躍できる人材に学ぶ場所を提供してほしい。  | 産業・雇用    |
| 45 | 県南地域 | 意見発表者 | 首都圏の会社の社長と話をすると、工場移転するには人材、電気、水が必要だといいい、いちばん最初に人材をあげる。そのような受け皿があるかどうかで(移転の)判断をしているということは聞いている。   | 産業・雇用    |
| 46 | 県南地域 | 意見発表者 | 観光交流について、市町村や県境を越えた展開しているが、県南地域にも観光資源はあると思うので、1市4町4村がしっかりと連携をしながら県南が一つになるような施策があると産業も活性化すると思う。   | 観光・交流    |
| 47 | 県南地域 | 意見発表者 | 神社がコミュニティの中心として、1年間に1回みんなで顔を合わせることで、地域の話ができ、コミュニケーションが図れると感じている。   | 地域づくり    |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|----|------|-------|--|-----------|
| 48 | 県南地域 | 意見発表者 | 以前、キーワードを聞いて旧跡名所を歩くスタンプラリー(コードF)があったが、子供の視点だと詳しく知らない県内の旧跡名所をくまなく家族でまわれるのは非常に良いと取組だと感じたので、またあれば協力したい。   | 観光・交流     |
| 49 | 県南地域 | 意見発表者 | 国道289号線が混雑する。雪が降るとか、事故に遭うと迂回路がないため不便。その辺がもう少し便利になれば、東白川郡と西白河郡の行き来もよくなるし、首都圏からのアクセスの良さを生かして、テレワークしながら田舎暮らしなど、県南地域の強みを打ち出せる。                                       | インフラ復旧・整備 |
| 50 | 会津地域 | 意見発表者 | 1社や個人の損得ばかりを気にする時代ではなくなっている。自分だけがよければいいという考えではなく、やはり人のために・誰かのためにということがまず根本的な押さえるべきポイントである。   | 産業・雇用     |
| 51 | 会津地域 | 意見発表者 | 世界的にもSDGsということが叫ばれ、サステナブルな社会を目指していく、持続可能な社会を目指していくということがこれから非常に重要なテーマになっている。   | 産業・雇用     |
| 52 | 会津地域 | 意見発表者 | 教育問題も地域振興策も何を目指していくのか、ただ自分が生活を豊かにするために学んでいくということではなく、地域のために・人の役に立つためにというような意思、根本的なことをしっかり押さえていかなければいけない。   | 地域づくり     |
| 53 | 会津地域 | 意見発表者 | 教育に関しては、意識の問題、何のためであるのかという教育がまず必要である。中小企業などの外部からの出前講師や、教育機関への社会を通じた教え、道徳教育など、生きていくための教えも必要である。   | 教育        |
| 54 | 会津地域 | 意見発表者 | 1社や1業界、というようなところで幾ら頭を捻ってもなかなか新しいこと、イノベーションというのは起こせない。  | 産業・雇用     |
| 55 | 会津地域 | 意見発表者 | 手を取り合って、やっていく。そうすることによって、外部の目が入る。今まで当たり前だと思っていたことが当たり前ではなくなる。自分の技術と異業種の技術が組み合わさることで全く新しい産業が起きたり、捉え方も生まれる。  | 産業・雇用     |
| 56 | 会津地域 | 意見発表者 | 業種間のコラボレーション、しかも企業間コラボレーションの枠を超えた、組合と組合だったり、農業と産業だったり、そういうつながりがこれから地域を発展させていく、また、今までになかった新しいことを生み出していける。   | 産業・雇用     |
| 57 | 会津地域 | 意見発表者 | 小・中学校の統廃合に伴って、空き校舎が現在出てきており、さらに今後必ず出てくる。学校は当然中心市街地にあり、広大な土地があるということで、その活用については真剣に臨まないといけない。  | 地域づくり     |
| 58 | 会津地域 | 意見発表者 | 役所は前例を重んじるということがあるが、空き校舎の活用については、各地域で同一の問題であることから、できるだけ前向きにシンプルにスピード感をもって対応いただきたい。(例えば、喜多方商工会議所は築50年で、新築ではなく、空き校舎を活用するなど前例はあまりないが、前例に囚われず多様な利活用について前向きに検討してほしい。) | 地域づくり     |
| 59 | 会津地域 | 意見発表者 | 数年先の先取りのような形でいろんなところでデジタル化現象が起きている。オンライン会議(Zoom)、ペーパーレスやタブレットの活用をはじめ、前例を重んじてやっていくと、このスピード感に追いついていけない。  | その他       |
| 60 | 会津地域 | 意見発表者 | サポート事業については非常に効果的な制度で、サポート事業のおかげで、この会津地域でいろんな事業の取り組みが行われている。ただ、サポート事業は最大3年で、サポート事業が終わった段階で事業も終えるというのも垣間見え、持続性をどのように考えていくか。お金がなくても持続できる事業を考えていく必要がある。             | 地域づくり     |
| 61 | 会津地域 | 意見発表者 | 患者力は医療業界で大変話題になっているワードで、自分の病気を理解したり薬を理解したりしている方とを比べた時に、治療効果が全然違う。(患者力とは、自分の病気を先生任せにしない、医療従事者任せにはせず両方で十分なコミュニケーションを通じて信頼関係を築いて、人生を前向きに生きようとする患者の姿勢。)              | 健康・医療・福祉  |
| 62 | 会津地域 | 意見発表者 | 患者が自分の病気を自分のこととしてとらえ、患者力を自主的に発揮できるように医療者が援助していくことをpatient-empowermentといい、大変重要なキーワードの一つである。   | 健康・医療・福祉  |
| 63 | 会津地域 | 意見発表者 | 薬剤師の分野での課題は、重複投薬と不要な薬の解消がある。薬剤師のいるところは、①大病院、②調剤薬局、③マンツーマン薬局、④ドラッグストア、⑤昔ながらの薬局などで、患者さんの情報は何一つ共有されていない。  | 健康・医療・福祉  |
| 64 | 会津地域 | 意見発表者 | 会津地区の医療連携に関しては、4つの取組を進めている。①会津お薬手帳(会津で統一した患者お薬手帳)、②キビタンネット(施設間ネットワーク)、③赤べこNet(薬剤師間ネットワーク)、④薬剤師・患者ネットワーク。   | 健康・医療・福祉  |
| 65 | 会津地域 | 意見発表者 | 薬剤師の大きな役目の一つとして、医師との連携役というのがある。患者とのつながりを密に、いつでも相談できる関係を作りながら、さらに、市民向けの勉強会で、がんや生活習慣、会津お薬手帳の使い方など進めていきたい。  | 健康・医療・福祉  |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野    |
|----|------|-------|--|-------|
| 66 | 会津地域 | 意見発表者 | 会津の魅力発信の裏付け、さらにパワーアップするためには、そこに安全で安心であるということがもっと強く保障されることが大切である。安心安全であるということが裏づけされれば、人も増えるし、定住も増える。  | 観光・交流 |
| 67 | 会津地域 | 意見発表者 | 施策では、ぜひ防災と減災についてしっかり取り組んでほしい。行政のシステムがしっかりしていくのは当然だが、地域ごとに課題が異なるため、自分が住んでいる地域について、地域の住民がどこが危なくてどこが安全かということなど課題を理解して、大人も子供も高齢者もすべての人たちが何か起きたときに自分はどう動けばいいのかというのを考えて、シミュレーションしておくことがとても大切である。 | その他   |
| 68 | 会津地域 | 意見発表者 | また、防災については、すべての課が連携して効率のいい事業を行っていくことがとても大事である。公民館等の力もとても大きい。   | その他   |
| 69 | 会津地域 | 意見発表者 | コロナ禍で他県からの移住が増えるような話が出ているが、他県からの人が増えても私たち自身の考え方が今までどおりでは、持続可能ということにならない。   | 定住    |
| 70 | 会津地域 | 意見発表者 | 会津に来た人たちに会津の風習とか文化を教えて馴染んでもらうという形は、本当の異文化交流ではなく、私たちが他県やその外国の方たちの文化や風習を学び、理解をして一緒に生きていくというのが本当の多文化の共生である。異なる文化や風習とも、ともに生きていく、理解し合って生きていくという地域になれば、本当の交流や移住定住が進んでいく。                         | 定住    |
| 71 | 会津地域 | 意見発表者 | 課題を何とか解決しなくてはいけない、規定数値を追いかけるといよりは、データを見直して考え方を変えていく、自分の考え方や地域の考え方を変えていくということで、何かがチャンスになるかもしれない。  | 地域づくり |
| 72 | 会津地域 | 意見発表者 | 移住定住については、コロナ禍で問い合わせは非常に増加している。エリアとしては、首都圏もしくは関西、名古屋方面からの問い合わせが多く、また、空き家を求める県内の動きとしては、特に中通りの方が非常に問い合わせが多い。空き家・空き地のバンク登録のうち空き家は8～9割が売却済みで、空き家が足りない状況がずっと続いている。                              | 定住    |
| 73 | 会津地域 | 意見発表者 | 地域ごとに全然風習が違うことから、空き家とともに地域の情報をエリアとセットで提供するため、また、移住者の受け皿をどうつくるかが課題であったため、(会津美里町では)地域の区長に157自治区アンケートをとり、受け入れたい自治区(90自治区)のところに積極的に受け入れてもらう取組を進めている。   | 定住    |
| 74 | 会津地域 | 意見発表者 | 地域から応援される移住者であること、そして地域は移住者を受け入れる姿勢・協力姿勢を見せないといけない。一部の地域では、地域が移住者を応援するという形が成功例としてでき上がっていて、応援・交流しながら、豊かな文化交流ができる。   | 定住    |
| 75 | 会津地域 | 意見発表者 | 会津地域はよそから見ると一つだが、会津といっても17市町村あって、その中にも合併した市町村もあり、合併される以前の地域性が残っている。地域連携しての会津ということで盛り上げるのもいいが、できればそこから移住者ニーズに合うように、地域を選べたり、地域も手を挙げて逆ドラフトのようにできる仕組みや人材育成など地域全体で盛り上がってほしい。                    | 定住    |
| 76 | 会津地域 | 意見発表者 | 会津は非常に移住者から注目を浴びているが、選択肢が今ホームページ上やネット上にないということと、もう一つ転職先がない仕事がない(就職じゃなくて転職)、そこが非常にネックである。   | 定住    |
| 77 | 会津地域 | 意見発表者 | 転職の情報をもう少し集約する。そして、何か新しいセカンドキャリア、特に伝統工芸に興味を持っている方が非常に多いので、そのチャレンジがもう少し気軽にでき、職人さんとなつなげて話ができやすい環境ができれば、循環する。   | 産業・雇用 |
| 78 | 会津地域 | 意見発表者 | 20代の若者は、今の自分たちの世代は暮らしを充実させたいと考えている。都市計画とか建築を学んでいる学生は地方暮らしを非常に希求し、望んでいる。特に都市部で育っている人にとっては、東京は便利だけれどお金さえ出せば何でも買えるから、それはやはり生きている感じがしない、という感覚がある。  | 定住    |
| 79 | 会津地域 | 意見発表者 | 地方での暮らしに興味がある若者が知識を得て、あとキャリアを得た人が転職や新しい就職、もしくは起業をできる受け皿を作っていくことを検討してほしい。   | 産業・雇用 |
| 80 | 会津地域 | 意見発表者 | 西日本で成功したモデルがやっとならぶと東北に来る、という流れがよくあり、その頃先進地ではまた新しい別のモデルができていく。新しいモデルをつくるくらいの意気込みで、福島県は頑張っていたら非常に盛り上がる。  | 定住    |
| 81 | 会津地域 | 意見発表者 | 特に西日本からのニーズが多いので、東京ではなくて、関西や九州方面に視点を向けて、全然違う文化だからこそ人を呼べる。移住定住や若者の交流もどうしても東京で止まっているので、東京よりは西日本の方が、東北の文化に非常に興味を持っているので、ターゲットの範囲を広げてほしい。  | 定住    |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等   | 分野    |
|-----|-------|-------|---|-------|
| 82  | 南会津地域 | 意見発表者 | 再生可能エネルギーという、今までは太陽光発電が脚光を浴びて来たが、南会津のおかれた環境を見れば、小水力発電に適した立地であると考えられる。水利権の問題など課題は様々あるが、行政と事業者が協力して進めれば、更なる開発の余地があるのではないかと。                                       | 産業・雇用 |
| 83  | 南会津地域 | 意見発表者 | この何年続くか分からないコロナ問題の中で、インターネット活用の通販や、新たな販売方法の確立に取り組むのは、コロナ問題の終了後も首都圏など地域外への販売の下支えとなるので、さらに力を入れる必要があると思う。  | 産業・雇用 |
| 84  | 南会津地域 | 意見発表者 | 農作物については6次化として商品開発するだけでなく、南会津産農作物そのものを活用したレシピを公開し、“お家で簡単に造れる”などの触れ込みでYoutubeなどで発信してはどうか。  | 農林水産業 |
| 85  | 南会津地域 | 意見発表者 | 木材産業は、他地域の超大型工場で生産される製材品と、南会津で生産される製材品とでは製材の手法が異なっており適正価格に大きな隔たりがあり、工場の維持にはとても苦労している。   | 農林水産業 |
| 86  | 南会津地域 | 意見発表者 | 木材産業は衰退しており、南会津の製材所もゼロになることも近い将来考えられる。また、山林での伐採労働者も高齢化し、危険も伴う仕事として労働力は増えずに減っている。これでは地域内での県産材利活用そのものが無くなる。   | 農林水産業 |
| 87  | 南会津地域 | 意見発表者 | 地方公共団体が適正利用のフラッグシップモデルとなり、地域と協力しながら、公共物件を地域適正価格にて別途発注を行ったり、木材産業を直に支えていく手法を取っていかねばならないのではないかと。   | 農林水産業 |
| 88  | 南会津地域 | 意見発表者 | 高齢化で跡継ぎもなく、辞めてしまう方も多く耕作放棄地が目立つようになっている。農機具は高額で、壊れたら辞めるしかないという話や、米を頼んで作ってもらっても、支払いが高く買ったほうが安いという話も耳にする。  | 農林水産業 |
| 89  | 南会津地域 | 意見発表者 | 思い切った政策をしないと、他地域から戻ってきて農業を継ぐ人は減っていくと思う。また、耕作放棄地で栽培して、売れて採算のとれる農家を職業として考える事が出来るような政策を希望する。   | 農林水産業 |
| 90  | 南会津地域 | 意見発表者 | 新潟県では耕作放棄地にマコモタケを栽培し、農産品にしていると聞いた。マコモタケは栽培も簡単で、栄養もあるそうなので、アイデアとしてどうか。   | 農林水産業 |
| 91  | 南会津地域 | 意見発表者 | FGAPの取組みなどから農産物の安全性をPRしていくことは今後も継続していく必要がある。  | 農林水産業 |
| 92  | 南会津地域 | 意見発表者 | 6次化商品の首都圏等でのPR活動をもっと積極的に行って頂きたい。  | 農林水産業 |
| 93  | 南会津地域 | 意見発表者 | 農業参入、担い手の育成は今後積極的に行って頂き、新規就農者を増やしてほしい。  | 農林水産業 |
| 94  | 南会津地域 | 意見発表者 | 農業者がSNSなどを活用し、発信、通信販売等を行える整備をして頂きたい。  | 農林水産業 |
| 95  | 南会津地域 | 意見発表者 | 当法人は木質ペレット燃料を小規模で製造している。このように小規模でバイオマス燃料を製造できる施設を整備し、南会津のバイオマス燃料を活用できる施設を整備して頂きたい。  | 農林水産業 |
| 96  | 南会津地域 | 意見発表者 | まるごと南会津観光PRフェアは集客がある素晴らしい取組であるので続けてほしい。フェアに来てくれた人に今度は現地に来てくれるようなアイデアがあればよい。   | 観光・交流 |
| 97  | 南会津地域 | 意見発表者 | 他県において、廃校になった小学校と休止中のスキー場を活用して教育施設にした例があるが、当地には、県立田島高校があり、この空き教室と、広大な敷地を利用して同じような事が出来ないか。関東圏に近い事から、県内だけでなく県外からの利用も期待でき、交流人口も増えるのではないかと。                         | 観光・交流 |
| 98  | 南会津地域 | 意見発表者 | 奥会津のロケーション、気候など、自転車ツーリングが非常に人気がある。専門家にコースを選定してもらい携帯アプリなどでタイムや回数を競いあったり、抽選で南会津BOXや南会津由来の商品が当たるようにし、観光を兼ねたゲーム感覚の客を増やしてはどうか。かなりのロードサイクル愛好家がいるので、口コミであつとゆう間に広がると思う。 | 観光・交流 |
| 99  | 南会津地域 | 意見発表者 | SNSの活用は今後も継続して発信して頂きたい。   | 観光・交流 |
| 100 | 南会津地域 | 意見発表者 | 南会津の大自然を有効的に活用でき、身近に感じて頂けるようなPRをして頂きたい。   | 観光・交流 |
| 101 | 南会津地域 | 意見発表者 | 移住に関して沢山の支援、援助があることは認識しているが、その枠をもっと活用しやすくすることが必要と思われる。  | 観光・交流 |
| 102 | 南会津地域 | 意見発表者 | 子供や学生の頃から継続的に南会津に来て頂き、第二のふるさとづくりのような事業を行って頂きたい。   | 観光・交流 |
| 103 | 南会津地域 | 意見発表者 | 首都圏へ鉄道直通で行けることは南会津の強みだと思う。南会津が通過点にならないよう、もっと魅力的なまちづくりを行う事を官民挙げて取り組む事業の活発化が必要だと思う。   | 観光・交流 |
| 104 | 南会津地域 | 意見発表者 | 南会津の独特の地形や環境、道路網を活用した交流人口の増加を図る必要がある。古民家でテレワークできる環境を発掘し提供するお手伝いができれば、強みになり得るのではないかと。  | 観光・交流 |



| No  | 地域    | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|-----|-------|-------|--|-----------|
| 105 | 南会津地域 | 意見発表者 | 高齢者の自然現象、若年層の都会への移動により、人口減少が止まらない状況にある。  | その他       |
| 106 | 南会津地域 | 意見発表者 | 若者が定住できる環境づくり、働く場所と子育て支援、男女の出会いの場づくりが一体で必要と考える。  | 定住        |
| 107 | 南会津地域 | 意見発表者 | 観光・交流人口を増やすには道路がとても大切。どこに出るにも遠くて、特に冬は病院に行くにも一日がかりである。高速のある坂下～只見～南会津へ続く道路の建設を望む。  | インフラ復旧・整備 |
| 108 | 南会津地域 | 意見発表者 | 南会津町から那須塩原インターに安全で短時間で抜ける道が必須だと思う。豪雪地であり、首都圏から正月に帰省するのは大変なこと。冬道でも峠がなく安全に近く東京に向かえる道路が出来たら、週末だけ田舎で生活する者も増えると思う。また、那須塩原まで近くなれば新幹線で東京通勤も可能になり、必ず活性化につながると思う。   | インフラ復旧・整備 |
| 109 | 南会津地域 | 意見発表者 | 昨今の集中豪雨や台風被害など、災害が発生すると大規模なものになりやすい傾向にある。日頃からの備えが必要であり、山林の保全や治山、砂防など甚大な被害を抑制する施設の整備が急務である。ただ、それらの事業化には町村の役割が重要であるが、昨今の人員削減により、技術系の職員が少なく中々手がまわらないのが実情である。そこで、県のほうからも人を回すなり、助言助力を強化するなどの対策が必要ではないか。 | インフラ復旧・整備 |
| 110 | 南会津地域 | 意見発表者 | 冬、深夜の緊急時に、道路が除雪されていなくて朝を待って移動するしかない場合がある。早朝、深夜など時間に関係なく安全に通れるように除雪体制の見直しが大切だと思う。また、併せて除雪の方の雇用の見直しも必要だと思う。  | インフラ復旧・整備 |
| 111 | 南会津地域 | 意見発表者 | 単に道路の整備だけでなく、災害時、冠水時のマンホールや、用水路など深いところの位置を示す案内板を設置してほしい。   | インフラ復旧・整備 |
| 112 | 南会津地域 | 意見発表者 | 災害時に高齢者が避難するためのマニュアル作りが必要。   | インフラ復旧・整備 |
| 113 | 南会津地域 | 意見発表者 | 県立南会津病院からの整形外科の常設の廃止は、信じられないぐらい誤った判断。森林の産業活用、アウトドアスポーツなどの観光活用の視点から考えても、撤退する事が信じられない。医療が無く、怪我への対応不足を懸念し産業が育たないこともあるのではないか。  | 健康・医療・福祉  |
| 114 | 南会津地域 | 意見発表者 | 南会津病院の整形外科が非常勤となったことは大変ショックを受けた。そのことにより、入院を伴う症状の方は、会津の病院へ紹介されたという噂も聞いた。医師不足は把握しているが、このことは地域完結型医療への転換、機能向上などの問題よりも深刻な問題ではないかと思われる。  | 健康・医療・福祉  |
| 115 | 南会津地域 | 意見発表者 | 福祉において、就業している障害者の数はあくまでゴール地点。スタート地点に目を向け、より良い支援をしていくような事業を拡充すれば障がい者の就業は確実に増えていく。また、雇い主の支援も拡充が必要。   | 健康・医療・福祉  |
| 116 | 南会津地域 | 意見発表者 | 山でナラ枯れ被害が目につくようになっており、どんどん広がってしまうようで心配である。   | 農林水産業     |
| 117 | 南会津地域 | 意見発表者 | 歩道の草が多く、各集落ごとの草刈りでは限界だと思う。豊かな自然環境の景観として考えるならば、集落だけに任せるのではなく地域、県で考える時なのではないか。コロナで仕事が減った方や、高齢者の方が空き時間にアルバイトできるような仕組みはどうか。  | インフラ復旧・整備 |
| 118 | 南会津地域 | 意見発表者 | 豊かな山林や伝統文化を守り、維持するには必要なお金がかかる。森林環境税の用途拡大などにより、その支援をお願いしたい。   | 農林水産業     |
| 119 | 南会津地域 | 意見発表者 | 南会津の9割は森林なので、森林を大切にし、後世に手を加えない自然を残していく役割をはたす事業が必要。   | 農林水産業     |
| 120 | 南会津地域 | 意見発表者 | 体験学習や学習会などを通して小中学校のふるさと教育は継続して行って頂きたい。   | 教育        |
| 121 | 南会津地域 | 意見発表者 | 地域住民や集落が自主的に行う伝統文化や伝統芸能の継承に向けた支援を拡充し、それをきっかけに、若者の定着、首都圏からの移住などの方向性を見出すことが出来るようなことが大事。  | 定住        |
| 122 | 南会津地域 | 意見発表者 | 各町村とも以前から空き家がかかり多くなっている。前から取り組んでいる事だが、空き家再生を積極的に進め、移住者には格安で貸し出すなり、何年かは無償にするなどの方策をとってはどうか。  | 定住        |
| 123 | 南会津地域 | 意見発表者 | SNSで情報を発信し広報を強化しないと競争に負けてしまう。大変生活のしやすいところだと言うことを積極的にアピールし移住者を増やす努力が必要ではないか。  | 定住        |
| 124 | 南会津地域 | 意見発表者 | 町内の商店街の空洞化が気がかり。商店はほぼ閉店し、昔の活気ある町とは程遠いように感じる。何かうまく観光客を取り巻き、過疎地域のモデルケースとなるような活動ができないものかと思う。  | 観光・交流     |
| 125 | 南会津地域 | 意見発表者 | 他県で、行政と市民の連携により町並みを整備した画期的な例がある。田島地区では祇園祭があるので、モダンな街並みを屋台が疾走する景観は素晴らしい遺産となるのではないか。   | 観光・交流     |
| 126 | 南会津地域 | 意見発表者 | 広大な原生林や多様な文化を継承する集落とその里山での人々の生活は日本の原風景であり、それを保全・保護することは重要。   | その他       |

| No  | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野    |
|-----|------|-------|--|-------|
| 127 | 相双地域 | 意見発表者 | 特定復興再生拠点区域の避難指示解除がおよそ2年後となった現在、未だに除染の計画すら目途が立っていない(国からの計画が示されない)地域がある。県及び市町村などから、国に対して除染に関する要望が出されるものの、未だに明確な方針や時期は示されていない。今後も根気強く国に対して要望されるよう希望する。  | 避難地域  |
| 128 | 相双地域 | 意見発表者 | 広大な山林をすべて除染することは困難であり、自然に消えるのを待つしかないと考える。そこにお金をかけるなら、学力があっても家庭が貧困で大学などにいけない未来のある子どもの教育にお金をかけるべき。安心だという情報を得ることができず、消費を控える人もいるので情報の発信は必要と考える。  | 避難地域  |
| 129 | 相双地域 | 意見発表者 | 木炭の放射能実証実験が葛尾村と飯館村で実施されると聞いた。「放射能基準値改定を目指すことを小さな二村が行なっていること」について、県の見解はいかがか。国の仕事だと言えばそれまでだが、二つの村は国がやろうともしないことをしている。この難事業は、時間がたてばたつほど、大きな出来事となると考える。国に従順であるだけが県や市町村の仕事ではない、この心意気はどこかで持って頂きたいと願う。   | 避難地域  |
| 130 | 相双地域 | 意見発表者 | 檜葉町で暮らす肌感覚として、「復興」が原動力であった時期は終わったと感じる。これからは、ただその人の人生の舞台として町が選ばれ、生活を充実させるための教育プログラム等が施行されるのだと考える。   | 避難地域  |
| 131 | 相双地域 | 意見発表者 | 原発事故に起因する賠償金問題は、同じ県内でも地域の状況によって異なっている。その結果、賠償金額に起因して県民の間に不公平・不平等感が発生し特に被災地域住民感情に悪影響を及ぼしている。損害賠償金対策については「避難者等に寄り添った生活の再建」の項目で対策が検討されているが、本来は「被った損害に相当する金額」の話であり、原発事故以降に地域再建のためいち早く地域に戻り各方面で努力してきた人と避難生活をしている人が差別されるべきではない。発災後10年近く経過している現在において、「損害賠償対策の取り組み」として、県民の平等性という観点から賠償金について県が検証をする必要性を感じる。 | 避難者支援 |
| 132 | 相双地域 | 意見発表者 | 震災から10年近く経過し、未だ本人のイメージまで再建レベルが到達していない被災者の救済が課題になると考える。かつては田舎ながら畑や山の幸、地域コミュニティの相互扶助により、収入は少なくとも生活ができる地域であった。このような生活基盤は、長い時間をかけて形成されてきたもので、この基盤を破壊された人々の自力での再建は非常に困難ではないかと推測する。  | 避難者支援 |
| 133 | 相双地域 | 意見発表者 | 町民とまらない避難者と町民の中で溝があるように感じる。町税を払わず、地域の関わりに参加しない、ゴミ当番・草刈りなどの作業もしない。でも、ゴミ捨て場などは使っているのが不公平感が出るのだと思う。「話をしてみると良い人なのに」ということもあり、町内でお互いの関わりを作るのも必要かもしれないと感じる。   | 避難者支援 |
| 134 | 相双地域 | 意見発表者 | 若い世代ではご近所づきあいなどをあまり好まない傾向があり、避難前のコミュニティの維持や再生は難しい。避難先で新しいコミュニティに参加するには積極性と努力が必要であり、そういった活動を好まない方もいるため、必ずしもコミュニティの全員が参加しなくてもいいのではないかと考える。   | 避難者支援 |
| 135 | 相双地域 | 意見発表者 | 避難者支援に関しては、今まで、今後の取り組みで十分と考える。原子力災害法が役割を終えるまでの期間をいかに繋ぐかは大事な視点。選択肢を提供しつつ、どこかで線引きはやむを得ない。戻らない選択をした時は、それは移住と捉えるべきと考える。  | 避難者支援 |
| 136 | 相双地域 | 意見発表者 | 復興公営住宅には、双葉郡の町村住民が混在して入所しており、その支援として、各世帯への個別アプローチは各町村に配置されている生活相談員(県保健福祉部管轄)が担い、コミュニティ事業等については、コミュニティ交流員が担っている(生活拠点課所管)と思われる。それぞれの目的は違うが、個別の対応と集団対応は連動して対応していく方が効果的と思われることから、今後は、組織体制を見直し、支援体制を一本化して対応してはどうか。  | 避難者支援 |
| 137 | 相双地域 | 意見発表者 | 避難者等に寄り添った生活の再建について、現在の課題としては概ねソフト面でのサポートがメインと考える。コミュニティがなぜ重要なのかというところに立ち返る必要があるが、言うまでもなく孤独な生活は幸福ではない。孤立による経済損失も大きく、海外では孤独担当大臣を置く国もあり社会全体の課題であると考え。  | 避難者支援 |
| 138 | 相双地域 | 意見発表者 | 原発による社会生活の分断は福島県特有の課題。移住施策等による新しいコミュニティも各地で見られるようになったが、かつてそこに暮らしていた住民のコミュニティ再生や帰還促進に繋がっている例は少ない。コミュニティビジネスを行いやすい環境(ボランティアでなく、仕事として中長期的に成り立つ支援)を重点とした施策を立てる必要がある。   | 避難者支援 |

| No  | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野    |
|-----|------|-------|--|-------|
| 139 | 相双地域 | 意見発表者 | 長期間、避難先での生活を送られている方々の気持ちは到底推し量れない。避難指示解除後5年が経とうとしている檜葉町では、帰還の大きな流れは収束の時期を迎えつつあり、移住促進へとシフトしているように感じる。   | 避難者支援 |
| 140 | 相双地域 | 意見発表者 | 海と山、両方の恩恵を受けられることが浜通りの特色の一つと考える。しかし、「山林は除染しない」という方針のもと、山林(里山)については宅地から一定程度の部分しか除染が行われていないと聞き及んでいる。この地の大きな個性である里山を、安心して活用できるよう、山林(里山)の除染を進めるよう要望する。   | 環境回復  |
| 141 | 相双地域 | 意見発表者 | 今後の復興に向けては、住民の生活の安定を取り戻すことが最重要課題であり、住まい、健康、雇用の場、コミュニティ、防災・安全の5つのサイクルがまわり、より充実していくことが必要。特に健康、雇用、コミュニティは連動するものであり、有機的に結び付けて取り組んでいくことが相乗効果を生むと考える。そのためには、このサイクルを回す横の連携体制が重要である。   | 環境回復  |
| 142 | 相双地域 | 意見発表者 | 「復興」や「繁栄」の指標が「経済的」な切り口ばかり。「科学の最先端(と思われた)」「地域の振興をもたらす(ある意味正解)」原子力発電所が今回の災害の原因であったことを鑑み、立ち止まることも必要ではないかと考える。   | 環境回復  |
| 143 | 相双地域 | 意見発表者 | 除染については、安心できる暮らしのため、土地、道路、建物等生活圏全般の放射線の測定事業を少なくとももう一度行い、数値とし「見える化」を行い、県民及び県外の人に知らしめることが、福島の安心安全につながると考える。  | 環境回復  |
| 144 | 相双地域 | 意見発表者 | 「福島は安全」を知らせるために、今でも放射線測定を行っており、且つその結果を広く全国に公表するもっとより良い方法・手段の検討が必要と考える。   | 環境回復  |
| 145 | 相双地域 | 意見発表者 | 川内村は江戸時代には天領として木炭供給地であった。また、戦中の原爆開発のため県中・石川町ではウラン取りを学生が担っていたとの記録もある。今度は歴史を、世界を牽引する番だ。歴史としては止むを得ず木炭、石炭、原子力を担ってきた福島が、自らの意志で(国の後押しもあって)新エネルギーを作り上げたというストーリーも織り込みながら、誇りを持って取り組まれることを切に望む。  | 風評・風化 |
| 146 | 相双地域 | 意見発表者 | 原子力に依存しない産業の振興として今まで通りの施策の継続を望む一方、コロナ禍で視察等も難しい中でも動画の発信などは可能と考える。周知の一手段としてご検討されたい。前例のない対応が困難という意見もあろうが、アフターコロナではこうした理由が通用しなくなるであろう。   | 風評・風化 |
| 147 | 相双地域 | 意見発表者 | 風評対策は苦勞が多く、実りが少ない難事業と考える。対応としては、小さい単位では、現状のファンを大事にしてロコミを増やすことしかない。これまでの福島県の実直な取り組みがコアなファンを作り出していると強く感じる。   | 風評・風化 |
| 148 | 相双地域 | 意見発表者 | 風評対策の大きな取組としては、インフルエンサーとして協力者を仰ぐこともでき、TOKIOがその任を果たしているようにも感じる。   | 風評・風化 |
| 149 | 相双地域 | 意見発表者 | 農産物及び水産物に関しては「口に入れるもの」というだけで消費者にも就業者にも負のイメージを払拭しきれしておらず、風評の根深さを実感している。日本国内のみならず、海外においてもその信憑性を担保しながら安心・安全を発信し認知してもらうためには、原発関連とは別軸のところでも福島のイメージを変えるインパクトをもたせることが重要と考える。具体的な案としては、RTFほかテクノロジー関連で農業や防災の面から結果として特に安全性が注目されること、また、海洋環境で言えば、SDGs関連で、海の綺麗さやプラスチックなどのゴミ問題に取り組むことで世界的に認知されること、日本で唯一のクリーンな海になること、いわきや南相馬でのサーフィンの世界大会を通じて海外のインフルエンサーの影響力を用いて海全体のイメージを刷新することなどが挙げられる。 | 風評・風化 |
| 150 | 相双地域 | 意見発表者 | 風評被害払拭のため、まずは口に入るもの以外のところからしっかりと環境の安全性を訴求していかなければならない。様々な観点から地道に信頼を積み上げ、少しずつ時間をかけるべき課題であり、そういったことを一気に逆戻りさせるような汚染水の海洋流出などの問題は論外である。   | 風評・風化 |
| 151 | 相双地域 | 意見発表者 | 全国各地の名産品をオンライン取り寄せできる時代になった。安全性を数値で表示すること、美味しさをアピールすることに加え、その商品にまつわるストーリーを表現できたらよいのではないかと考える。  | 風評・風化 |
| 152 | 相双地域 | 意見発表者 | 進捗が遅い町村では、未だ試験的な栽培に留まり、営農再開まではまだ時間がかかる。農業の担い手の発掘については、補助/助成金以外にはほぼ成り行きに任せられているともみられ、農業の再開については長い時間を要すると考えられることから、引き続き再開のための施策の継続をお願いしたい。   | 農林水産業 |

| No  | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野    |
|-----|------|-------|--|-------|
| 153 | 相双地域 | 意見発表者 | 安全性の発信については、被災地外の人々に現地に来ていただき、農作業の体験/収穫体験/食の体験をしていただくことが効果的と考える。交流人口の増加にもつながり、被災地と他地域の定期的な交流形成には良い機会となる。大人数では無理だが、小さいところから少しずつやっていくべき。   | 農林水産業 |
| 154 | 相双地域 | 意見発表者 | 気候も変化してきており、今までと同じように育てたものを収穫するとはいかず難しい所だと思う。天候に左右されない物作りや、生産から消費までの流れをブランド化していく福島としての物を売り出すのは良いと思う。   | 農林水産業 |
| 155 | 相双地域 | 意見発表者 | あおさのりを1kg生産するまでには同量の二酸化炭素が消費される。また、生産が終わった後の残りかすを利用して鶏のエサに3~5%分のあおさを入れると黄身の発色が良くなり、黄身の総カロチン、ルテイン、ヨウ素の含有量が増えることもわかっている。原発事故のあった福島県だからこそ、資源を無駄にしない生産活動を展開し、ストーリー性を持った商品を作り上げ販売促進することが、新たな産業の創出になるのではないかと考える。   | 農林水産業 |
| 156 | 相双地域 | 意見発表者 | 水産業については1日も早く本操業に移行してもらいたい。現在の試験操業の仕組みでは時間的制限があり、底曳漁船の水揚げがかなり少なく、かつ遠くの漁場まで行けない。このため、本ズワイガニなどの商品力が高い魚介類が少なく集客ができていない。消費拡大のためには本操業への移行が急務である。  | 農林水産業 |
| 157 | 相双地域 | 意見発表者 | 震災後、県産桃などのフルーツ類は輸出やふくしまプライドなどで販売され高評価を得ているが、相双地域浜通りの水産品については明るい話題がない。この状況を打破するため、松川浦では現在、あおさのり(ヒトエグサ)を中心とした商品開発を進めており、10月末にオープンする相馬市民市場(浜の駅 松川浦)においてお土産品の販売を開始する。今後のブランディングとして松川浦産あおさのりの成分検査を行い、ラムナン硫酸等の体に好影響が期待される栄養素などの含有量や効能などを精査し、「おいしい」以外の商品価値を見出して売り出すことが重要だと考える。「復興知」等の活用による産学官共同での開発販売が必要であるためバックアップをお願いしたい。 | 農林水産業 |
| 158 | 相双地域 | 意見発表者 | 常磐道や相馬福島道路の開通により、人の移動が速く便利になった。いままで宿泊していた方々が日帰り旅行にシフトするというデメリットがあるものの、逆に山形方面や北関東などからの宿泊者が増加している。他県の道の駅やサービスエリアなどを活用し、双方のPRができるブースを作れば集客の一助となるのではと考える。  | 観光・交流 |
| 159 | 相双地域 | 意見発表者 | 観光地域の復旧支援については、コロナ禍を転機として新しい在り方が求められる。過去の取り組みに捉われず、県民や隣県の方が利用しやすいような工夫を凝らし、リピーターの獲得や回転率向上が重要である。観光地域間競争を防ぎ、小さな経済圏でまわしていくことが基盤強化に繋がるため、福島県の魅力を県内に再認識してもらおう広報・PRによる内需拡大を目指したい。   | 観光・交流 |
| 160 | 相双地域 | 意見発表者 | 福島イノベーション・コースト構想は官民及び地域が一体となって成功させるようにしなければならない。エリアは被災12市町村であるが、波及効果は福島県内全域に広げなければいけない。浜通りの縦軸を中心に、全県に波及するまでの具体的な構想があると県民にとっても先行きが分かり易くなる。  | 産業・雇用 |
| 161 | 相双地域 | 意見発表者 | 被災12市町村に散らばっている福島イノベーション・コースト構想の各拠点をどのように連携していくかが重要となる。「国際教育研究拠点」事業は、この観点から建設・運営・利活用されるべきと考える。将来の道州制まで想定した場合、南東北3県や中心となる仙台市との連携、そして、東北新幹線・東北道の延長線上である盛岡市との連携も考えると福島イノベーション・コースト構想の波及効果は無限の可能性を持っている。   | 産業・雇用 |
| 162 | 相双地域 | 意見発表者 | 子どもたちに夢を与える産業は福島を輝かせると思う。ロボットテストフィールドでのこども科学祭もとても良かった。これからの福島を作っていく子どもたちの中で、住んでいる土地への愛着が生まれるような形が良いと思う。  | 産業・雇用 |
| 163 | 相双地域 | 意見発表者 | 生活する上で電化製品は欠かせない。原子力の恐ろしさは震災で十分理解しているが、同様にエネルギーを作ることもまた大切であると考えている。  | 産業・雇用 |
| 164 | 相双地域 | 意見発表者 | 今回のコロナ対策が、よりAIを活用した新しい介護施設を進化させ推進していくことにつながると期待できる。そのためには、施設整備費の補助や研究開発にお金をかけ、実用化に向けていくことが必要。また、地域コミュニティ、働き方、健康においても、新たなつながりや活動の方法を取り入れ推進していくことが必要である。   | 産業・雇用 |
| 165 | 相双地域 | 意見発表者 | 原子力の安全に関しては、これから数十年も続く廃炉作業に従事する職員の減少により、安全性が危惧される。専門技術者の育成は不可欠と考える。  | 産業・雇用 |

| No  | 地域   | 発言者   | 意見等   | 分野    |
|-----|------|-------|---|-------|
| 166 | 相双地域 | 意見発表者 | ロボットテストフィールドでは新型コロナの影響を受けながらも市民との交流イベント等が行われているが、現時点においてはBtoBやBtoCのビジネスコラボや共創を図る場が少ないように見受けられる。今後、誘致した入居企業と地元企業、または個人事業主などとビジネスマッチングする機会が増えれば、協働事業やイノベーションの観点から尚一層良いと考える。   | 産業・雇用 |
| 167 | 相双地域 | 意見発表者 | イノベーション・コースト構想に関わるような新たな企業立地が少しずつ進んでいるが、地元住民との間に接点が少なく、地元からは「新たな産業」として認知されづらい状況だと感じている。解決策としては、単純なことであるが、新たな産業の担当者たちがその町に住むことが挙げられる。  | 産業・雇用 |
| 168 | 相双地域 | 意見発表者 | 被災地の未来は、人づくりにかかっている。将来的な課題としては、育まれた人材(人財)が、郷土のために働いていただける、協力していただける仕組みづくりかと考える。必要なのは生業であり、地域とのつながりであると考えるが、いずれにしても長い目で、継続することが最も重要であると感じる。  | 地域づくり |
| 169 | 相双地域 | 意見発表者 | しんちの子育て考え隊の活動としては、津波被害地域(釣師地区)にて伝統として行っていた地域行事のお盆の迎え火の再現を行った。かつての住人たちの想いとこれからの人たちの想いを繋げるため、伝統を子どもたちに残す活動も必要だと感じる。   | 地域づくり |
| 170 | 相双地域 | 意見発表者 | 人づくり・地域づくりには時間がかかると考える。活動に共感し、参加してくれる人がいることで続いているが、町のサポートがない。住んでいる町民が必要と思うことと、町が必要と思うところに誤差があるのかを町に理解してもらう必要がある。しんちの子育て考え隊としては、子どもたち&その保護者&地域の大人を巻き込む形で活動していく。関わる人を増やすことが、人・地域づくりに繋がるのではないかと考えている。                  | 地域づくり |
| 171 | 相双地域 | 意見発表者 | 福島として将来こうなったらいいなというビジョンをみんなで見ていくのが早いと思う。また、地域に舵取りが出来る人材を作ることも大事だと思う。福島県として、リーダー作りの研修等があれば参加したい。   | 地域づくり |
| 172 | 相双地域 | 意見発表者 | 空き巣が入った、農機具が盗まれた等の話を聞いたり、県外ナンバーの車がうろろうしている不安を感じる。   | 地域づくり |
| 173 | 相双地域 | 意見発表者 | 子どもの数が少ないので、地域づくりは難しい問題。よそから若者を取り入れるため、地域の姿を「見てもらう」ことは大切だと考える。努力している大人たちをみて子どもが何かを感じ、自分が将来どういう仕事について社会の役にたつという目標をもってもらう教育が必要。未曾有の被災地域で汗を流し働く大人たちの姿は立派な「教育」になると考える。  | 地域づくり |
| 174 | 相双地域 | 意見発表者 | 復興に向けた新たな地域づくりに関しては、次の世代をいかに育てるかに尽きる。意識の醸成は県の仕事ではないかもしれないが、次世代の若者のみがこの地域をつくること意識を持って欲しいと願う。移住した身ながら、地元で育った人材がこの地で将来生きることを選ぶ福島県であってほしい。  | 地域づくり |
| 175 | 相双地域 | 意見発表者 | どこの大学もオンライン化する現状で、田舎をフィールドに学ぶ大学があったら面白いと思う。   | 地域づくり |
| 176 | 相双地域 | 意見発表者 | 地域再生やコミュニティの構築は、人の力に依るところが大きい。帰還していない地域のリーダーやキーパーソンを戻すような取り組みを行ったり、呼び水となる人材を外から投入したりするなどして、中長期をかけてしっかりと地域に根付いた活動をすることが復興及び地域創生の近道と考える。またいつか起こり得る災害時の減災のため、福島県では特に、互助の力をつけるためのコミュニティビジネスを志すリーダーが活動しやすい支援を望む。         | 地域づくり |
| 177 | 相双地域 | 意見発表者 | 地域づくり活動の課題は、その大半が資金調達。主体者が個人の善意や志に頼らざるを得ず、苦しい状況に陥ったり疲弊したりすることが多いため、運営を維持できる資金繰りのサポートが必要である。県のサポート事業などは概ね補助率2/3であるが、参入のハードルを下げてプレイヤーを増やすには、担い手育成という視点からも、人件費を一部補助可能にしたり補助率を10/10にするなどの対応が新たな課題解決に繋がると考える。            | 地域づくり |
| 178 | 相双地域 | 意見発表者 | 昨年の豪雨災害の際、水道水を飲み水として使えなくなる事態に陥ったが、飲み水を役場で配布するなどといった最新情報が、高齢の方には伝わりづらかった印象がある。具体的にはインターネットから情報を得られない、防災無線を聞き取れない、気づかないなどの事例があった。また、情報を得ることができても移動手段がなく取りに行けないなどの不便もあった。普段から隣近所のコミュニティーで高齢者の方々を守っていく以外、方法がないように感じている。 | 地域づくり |

| No  | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野       |
|-----|------|-------|--|----------|
| 179 | 相双地域 | 意見発表者 | 移住支援について、仕事もそうだが、住むところがないと移住しにくい。高知県梶原(ユズハラ)町では、町が空き家を買って上げて、移住者に格安で賃貸している。町村住宅も入り口としてアリだが、暮らしとしては都会と変わらない。  | 定住       |
| 180 | 相双地域 | 意見発表者 | 移住を検討するにあたり、他から移住しやすい・帰りやすいと感じられるような物理的ハードルを下げる施策が最も重要と考える。マルチワーカーの若年層であれば雇用と移動手段さえあれば移住する可能性は十分にある。シェアリングエコノミーの考え方を導入した施策やコストを抑えて参入障壁を下げる独自の取り組みを希望する。県の既存事業としては空き家改修の補助もあるが、非常に使いにくいと感じた。改修範囲の自由度や金額を上げることで、多拠点生活を検討する方にも有用なものになれば、結果として移住者や帰還者(二地域居住を含む)を増やすことに繋がると考える。   | 定住       |
| 181 | 相双地域 | 意見発表者 | 安心できる暮らしを支えるためには地域医療が重要。医療従事者は難しい資格を取得し経験を積んだ優秀な人たちである。人材不足について、当面は医療従事者の人事異動等で対応することしかないとと思うが、子供たちに対する教育の重要性を再確認し、教育及び教育環境整備により一層取り組むべきと考える。  | 健康・医療・福祉 |
| 182 | 相双地域 | 意見発表者 | 産婦人科などの医師不足に懸念がある。相双管内には車が必要な地域が多く、高齢者の免許返納後の移動手段に限られる。免許返納すると家族の負担が増えると感じる。   | 健康・医療・福祉 |
| 183 | 相双地域 | 意見発表者 | 医療の充実が安心につながる。浪江町内の診療所は開所時間が短いので、17時ぐらいまで対応してもらえると安心。介護施設は、当法人(農業法人Jin)にてデイサービスを再開している。  | 健康・医療・福祉 |
| 184 | 相双地域 | 意見発表者 | 医療人材不足はいずれAIが代替するものと考えているが、移行期の対応をお願いしたい。  | 健康・医療・福祉 |
| 185 | 相双地域 | 意見発表者 | 相双地域に産科医院があれば若い女性の移住が促進でき、地域としての意志表示になると考える。   | 健康・医療・福祉 |
| 186 | 相双地域 | 意見発表者 | 医療機関が多ければ良いというものでもなく、医院が増えれば、その分病気が増えるジレンマもある。例えば、地域におけるAIは夕張にあたるかと考える。病院がなくなった夕張では、良くも悪くも病気が減ったようだ。救急搬送体制について、川内村でもドクターヘリも使える体制があることは有難い。   | 健康・医療・福祉 |
| 187 | 相双地域 | 意見発表者 | コロナ禍の影響もあり、避難先では更に孤立する高齢者の増加が予想されるため、生活支援相談員の巡回訪問継続が必要と考える。また、浜通り地区においては原発労働者の心の問題が多く、心のケアについても継続した取組が必要。職域、児童分野を含め様々なメンタルヘルスに対応できるようにしてはどうか。  | 健康・医療・福祉 |
| 188 | 相双地域 | 意見発表者 | 震災後の急速な高齢化、急激な家族の分散化により、介護福祉需要が高まっていると思われるが、早急に検討すべき事項を以下5点挙げる。<br>①住基上の人口、避難人口、町の居住人口を明確にし、どのような福祉サービスがどのくらい必要か、サービスの内容、量を実態に応じて検討すること<br>②地域包括ケアシステムの実現及び医療福祉の体制整備においては、双葉郡として広域的に体制整備をしていくこと<br>③行政組織を含めた組織体制の見直し(連携ではなく一元化)、共生を意識した仕組みやハード面の整備<br>④介護施設については、人手不足、人件費や様々な委託費等の高騰により、大変難しい状況下にあるため、法人連携など新たな経営体制や共生社会の実現に向けた多様性のある共生型の施設づくりを検討していくこと<br>⑤地域福祉の深化と充実 | 健康・医療・福祉 |
| 189 | 相双地域 | 意見発表者 | 医療従事者に関しては人材不足が顕著であるため、たとえ1名でも専門人材を確保できるだけで本当に有難く、その寄与もわかりやすい。養成施設への進学・通学補助については、資格取得後に地元へ戻ってきた場合のみ、福祉施設に就労が決まった時点で補助対象になれば、人材の流出を防ぎ、施設経営や事業基盤の安定化にも繋がると考える。   | 健康・医療・福祉 |
| 190 | 相双地域 | 意見発表者 | 医療、産業、研究、学問、芸術など、全てを発展させるためには教育が重要である。教育の高度化が必要と考える。   | 教育       |
| 191 | 相双地域 | 意見発表者 | 生活保護世帯やひとり親世帯など貧困世帯は連鎖すると言われ、貧富の差が拡大する中、平等に教育が受けられる環境や子育て、教育に財源を多く投入すべきと考える。   | 教育       |
| 192 | 相双地域 | 意見発表者 | 高校には特徴を持たせ、集中的に財源をあてていくべきではないか。  | 教育       |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|-----|-------|-------|--|-----------|
| 193 | 相双地域  | 意見発表者 | 中間貯蔵施設に係る交通インフラ(道路)については、迅速に整備されている印象がある。これに対し、日常生活に関連する道路の整備は、十分な整備がされていないように思われる。地域の復興が置き去りにされているような印象を与えるもので、帰還の意欲を削ぐことにもなりかねないため、バランスの良い交通インフラの整備を望む。  | インフラ復旧・整備 |
| 194 | 相双地域  | 意見発表者 | スーパーひたちなどの再開通に感激した。震災からまた一步前進したという感覚がある。福島市～相馬市の移動がしやすくなったことで、両地域への人の流れが増えたように思う。  | インフラ復旧・整備 |
| 195 | 相双地域  | 意見発表者 | 管内はどの道路もトラックや工事関連車両で混雑している。114号線などは法定速度を遙かに超えていたり無理な追い越しにひやりとする事が度々あり、工事のための信号機の無視が目立つ。114号線や12号線を使い通勤してくる職員もいるため心配が絶えない。  | インフラ復旧・整備 |
| 196 | 相双地域  | 意見発表者 | 交通インフラは大切な基盤で、常磐線の全線開通はその象徴として大きなシンボルとなった。川内から富岡へも道が広くなり移動が便利になった。国道399号線の工事が終わればいわき駅から川内村まで30分で繋がり、いわきからの通勤もあると村人も期待を寄せている。早期の実施をお願いしたい。  | インフラ復旧・整備 |
| 197 | 相双地域  | 意見発表者 | 通勤や医療機関への受診面などから交通渋滞を防ぐための交通機関の分散や充実は重要である。高速道路の無料化は、別の仕組みの中で継続してはどうか。   | インフラ復旧・整備 |
| 198 | 相双地域  | 意見発表者 | 除染ゴミ等の輸送道路と生活道路とは極力分けられる方法で検討が必要と考える。  | インフラ復旧・整備 |
| 199 | 相双地域  | 意見発表者 | 浜通り沿岸部と中通りを結ぶ道路整備に関しては、他県との接続も含めて期待度が高い。自動車を使う機会が増えるため、今後益々重要になってくると考える。   | インフラ復旧・整備 |
| 200 | 相双地域  | 意見発表者 | JR常磐線の全線開通は喜ばしいものの、利用状況を見ると以前からの赤字路線であることは変わりなく、人を運ぶインフラとしては新型コロナの影響もあって大変厳しい状況下にあると実感している。  | インフラ復旧・整備 |
| 201 | 相双地域  | 意見発表者 | インフラの復旧・整備に関しては、福島市への移動が早くなり大変便利になった。また、常磐自動車道は狭すぎて特に夜間の運転に不安があるため、拡幅は大変ありがたい。   | インフラ復旧・整備 |
| 202 | 相双地域  | 意見発表者 | 台風19号の災害やコロナショックははじめ前例のないことばかり。時代の変化に適應できる福島県であって頂きたい。   | その他       |
| 203 | 相双地域  | 意見発表者 | 昨今はコロナ禍による各種イベントの中止・延期等からくる精神的な影響により新たな(医療・福祉・教育などの)課題が発生することが予想される。スピード感ある県独自のリーダーシップの発揮とエッジの効いた対応・対策があれば、世界共通のコロナ渦中における優良事例となり、原発災害という大きな出来事を経験した福島県だからこそできるというポジティブなイメージを示すことに繋がり、シビックプライドの基礎固めになるものと考えている。 | その他       |
| 204 | いわき地域 | 意見発表者 | 風評を払拭するためには、農業生産活動における各工程の記録等を通して、放射線量や残留農薬の有無を公開し食の安全安心を消費者へ示していく以外はないと考えている。そのためにGAPの取得が有効だが、消費者がGAPとは何かということを認識していない。それがゆえに農業従事者の意識が全く改まらない。消費者に対するGAPの周知の強化や農業従事者に対するGAP取得のための財政的な応援体制が必要。                 | 農林水産業     |
| 205 | いわき地域 | 意見発表者 | 中心市街地においても店舗の撤退が著しく、経営者の高齢化や後継者の不足でのれんをおろす事業者も少なくない。若手起業家が会社を興しやすいような環境の整備が必要。   | 産業・雇用     |
| 206 | いわき地域 | 意見発表者 | いわき駅前には家賃が高く、さほど大きくないテナントであっても1カ月の賃料が30万～40万する。そういう状況ではお店を出すことができないので、それを細切れにしたり、昼と夜で営業を分けて貸してあげたりなどの工夫ができれば若手の人でも起業しやすいと考えている。  | 産業・雇用     |
| 207 | いわき地域 | 意見発表者 | 子供たちの意識改革として、小学生ぐらいのうちから商売について勉強する機会を作ることが必要。お金を稼ぐとはどういうことか、稼いだら税金を納め、その税金が実は自分たちの生活のためになっている、というような社会の根本にまつわることを楽しみながら勉強する機会を与えていくことができればよい。  | 産業・雇用     |
| 208 | いわき地域 | 意見発表者 | 平均寿命、健康寿命ともにいわき市は全国平均以下。ここに長い時間をかけながら取り組んでいく必要がある。   | 健康・医療・福祉  |
| 209 | いわき地域 | 意見発表者 | 団塊の世代の方々は今70代前半であることから、2025年から2040年までが日本における医療と介護のピークになってくる。これから抜本的なことを考えて医療と介護のニーズに対応していくことが必要。   | 健康・医療・福祉  |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等   | 分野       |
|-----|-------|-------|---|----------|
| 210 | いわき地域 | 意見発表者 | 医師の確保は非常に難しいのが現実。県立医大に地域枠を設け、県内で仕事をする医師を育てるといった仕組みを作っているが、なかなか定着してもらえない。例えば、医療分野においてAI、人口知能をいち早く取り入れることが必要と考えている。   | 健康・医療・福祉 |
| 211 | いわき地域 | 意見発表者 | 個人情報それぞれの機関で持っているが、個人情報保護の関係でお互いに出さないという状況。ここを共有化し、より効率的に、必要な方々への適切な支援につなげていくということが必要と考えている。  | 健康・医療・福祉 |
| 212 | いわき地域 | 意見発表者 | 介護人材については、県外だけではなく外国人の方々に仕事をしてもらおうということも考えていく必要がある。働き手労働力としてではなく、日本がアジアの一員として生きていくという意味で、日本人だけでなく何かをするのではなく、いろんな方々に住んでもらい一緒に共生社会をつくるということを前提にしながら、これからの社会を作っていくことが必要。 | 健康・医療・福祉 |
| 213 | いわき地域 | 意見発表者 | 今は新しくきれいなテナントよりも、古くて味があり特徴がある建物をリノベーションして使うことが人気。貸さなくてもいいと思っているがよい物件を持っている家主と、そのような安くて自由に手に入れられるような物件を使いたいと思っている人をつなげられる、家守という存在が必要。                                  | 地域づくり    |
| 214 | いわき地域 | 意見発表者 | 空き地も増えてきているが、何もしないと住宅が建ったり駐車場になったりと、エリア全体の価値を下げてしまう。不動産を持っている人と地元の住民がよく話し合い、計画的にどう活用していくのか検討していくことも必要。  | 地域づくり    |
| 215 | いわき地域 | 意見発表者 | 公園や道路上などの公共空間や公共施設については、民間で活用しながら収益を上げ、その収益で施設や公園などの維持をしていくような仕組みづくりや組織づくりが必要。住民が活用することで、公共施設や公園に愛着を持つとともに、コミュニティーも醸成される。住民が参加し、ボランティアで草刈りすることなどで維持コストも下げられると考えている。   | 地域づくり    |
| 216 | いわき地域 | 意見発表者 | いわき市は非常に広域で分散型の都市になっているため、公共交通機関を全体的に網羅させることは非常に難しい。タクシーや自家用車うまく活用した自動車暮らしやすいまちづくりが必要。他の地域では自動車暮らしやすいまちづくりは行っていないため、他地域との差別化が図られ移住者も増えると考えている。                        | 地域づくり    |
| 217 | いわき地域 | 意見発表者 | いわき市は非常に多彩で多くの観光資源があるが、なかなか活用されておらず、活用する人材も不足している。地域資源の活用や、観光に携わるような若い人材の育成をしていくことが必要。  | 観光・交流    |
| 218 | いわき地域 | 意見発表者 | 自治会設立はすべての復興公営住宅で完了したが、その次の担い手がいないということが課題となっており、引き継ぎ等に関して問題が生じている。   | 避難者支援    |
| 219 | いわき地域 | 意見発表者 | 復興公営住宅の自治会と地元自治会の交流については、今後は防災面等でお互い何かあったら協力する関係性が取れればよいと考えている。   | 避難者支援    |
| 220 | いわき地域 | 意見発表者 | 今後の問題としては、高齢化が団地の中で進んでくるため、徐々に足の問題や、避難した際の連絡網作成なども必要になってくる。連絡網を作る上では個人情報の問題があり、どのように行っていくかが課題。  | 避難者支援    |
| 221 | いわき地域 | 意見発表者 | 震災後の漁業自粛により、多くの魚種で資源量が増加したが、資源管理品質向上のため、ヒラメ出荷を震災前の全長30センチから50センチに引き上げて価格の向上につなげている。   | 農林水産業    |
| 222 | いわき地域 | 意見発表者 | マリンエコラベル認証の取得や県内外のイベントPRなどにより常磐産の復活、風評払拭に向けた取り組みを継続していくことが必要。   | 農林水産業    |
| 223 | いわき地域 | 意見発表者 | GAP取得の際には、農家や農業生産法人も本業に支障が来さないように書類を作成できるような環境の整備がなされることが必要。  | 農林水産業    |
| 224 | いわき地域 | 意見発表者 | 介護予防として、地域における教室では運動ができて、自宅での継続や、その教室の終了後も続けられるかは難しい。1人での取組には限界があると思っており、長い期間をかけながら様々な方々と一緒に活動できる環境を作ることも、一人一人が運動を継続していく意味では必要。                                       | 健康・医療・福祉 |
| 225 | いわき地域 | 意見発表者 | 元気で長生きということを考えると、運動や食事だけではなく生きがいが必要と考えている。  | 健康・医療・福祉 |
| 226 | いわき地域 | 意見発表者 | 最近の観光は、ありとあらゆるものが観光資源になると思っている。これまでの既成概念にとらわれず、新しく面白いものに着目し、それを商品にできて活かしていける人材が必要。  | 観光・交流    |



【主な意見】懇談テーマ2(県全体の課題) 新型コロナウイルス感染症が本県に及ぼす影響についてなど

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|----|------|-------|--|-----------|
| 1  | 県北地域 | 意見発表者 | 今後、首都圏からの人や企業の地方への機能分散や拠点移動、居住移転が進むと考えるが、これらに対応するICTのインフラ整備を早急に行う必要がある。また、その際の受け皿として企業に残ってもらうためには、人づくりが重要であり、人材育成の支援をお願いしたい。                               | 定住        |
| 2  | 県北地域 | 意見発表者 | 県立高校の統合においては、専門的なことを学べる学科を増やした方が、子どもたちのためになると考える。事業所としても専門的な教育を受けた子どもであれば、既に3年間で積み上げたものを持っており、即戦力として採用することができる。  | 教育        |
| 3  | 県北地域 | 意見発表者 | デジタル、IoTについては、特に福島県は遅れている。IoTの普及には、地域住民に理解していただけるような工夫が必要であり、イノベーション・コースト構想とは別の発想、手法が必要である。メタ比較により分析してほしい。   | 地域づくり     |
| 4  | 県北地域 | 意見発表者 | 県北地域は、福島大学、会津大学と山形大学の米沢キャンパス(工学部)といった理工学的な人材を多く抱えられるという点で、アドバンテージがある。地方創生の改革の中で、山形大学と福島大学に対して、よりコンピューティングに軸足を置いてもらえるよう県として働きかけた方がよい。                       | 産業・雇用     |
| 5  | 県北地域 | 意見発表者 | 新型コロナウイルスが収束すれば、逆反動で民泊の需要がかなり増えると考えられる。広島県では、県がガイドラインを定めて、この基準を達すれば、一般家庭でも民泊ができるという手法を採用しており、今までの修学旅行とは別に、中山間地域に経済波及効果が行き渡っている。ぜひ、このような事例についての研究や取組をお願いする。 | 観光・交流     |
| 6  | 県北地域 | 意見発表者 | 県民に健康づくりについても関心を持っていただくことを提案していくべき。食生活の改善見直しなどで、県産消費拡大、農業振興にも繋がる。  | 健康・医療・福祉  |
| 7  | 県北地域 | 意見発表者 | 人間の脳の順応性は就学前にしか完成しない。子どもの対人間関係能力や社会的適応能力の育成には適切な愛着が必要であり、子どもの安定した自己形成には、他者の存在、特に保護者の役割が重要である。乳幼児教育が非常に重要であり、根本的な人間が育つこの時期を取り戻すことはできない。                     | 結婚・出産・子育て |
| 8  | 県北地域 | 意見発表者 | アンケート結果によれば、保護者の不安、ストレスが子どもの育ちをかなり阻害する。保護者に対して、「ソーシャルディスタンス」と洗脳を掛けてしまうことで、逆の問題が出てくる。非対面とか非接触を含めて新しいコミュニティと言うが、実際に人が育つには発達過程が不可欠である。                        | 結婚・出産・子育て |
| 9  | 県北地域 | 意見発表者 | 飼料米への移行が推進されているが、国、県や市からの協力金がないと到底作ることにはできない。支援を明確化することで、農家は安心して飼料米に切り替えられると考える。   | 農林水産業     |
| 10 | 県北地域 | 意見発表者 | 遊休農地が減り、新規就農者が増え、生活環境も良くなるのが最もよいはずであり、そのためにも、農業に魅力を感じてもらうため、県は、現場の声をよく聞き、農業をやってみようかという気持ちにさせるような取組をしてほしい。  | 農林水産業     |
| 11 | 県北地域 | 意見発表者 | 3~5月に休校したことで、不登校になってしまった子どもがいる。家に居ることに慣れ、学習の遅れもあって学校に行きづらくなってしまったケースもある。   | 教育        |
| 12 | 県北地域 | 意見発表者 | 災害等が起こった時に子どもたちを預かってくれる場所が必要である。また、医療的なケアを要する子どもの受入先が必要である。  | 教育        |
| 13 | 県中地域 | 意見発表者 | グリーン・ツーリズムでは、新型コロナウイルスに影響されない、あるいは影響の少ない環境である農業という職業を、若い人たちにもPRし、ぜひ田舎で暮らせるような体制を作っていきたいと思う。  | 農林水産業     |
| 14 | 県中地域 | 意見発表者 | 移住希望者を福島県に呼び込むには、移住希望者の受入事業者に対して、事業費に活用できる費用や補助メニューが設けられると良い。事業者や地域プレイヤーに対して仕事を創出する試みや、そういった試みを行う事業者に対して支援を行うと、移住希望者を呼び込みやすいと思う。                           | 定住        |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|----|------|-------|--|-----------|
| 15 | 県中地域 | 意見発表者 | 接客事業者への優先的な支援が必要。また、医療従事者の方等に対しても見えないところでの苦労というがあるので、金銭的にもどんどん使えるものは使っていただきたい。   | その他       |
| 16 | 県中地域 | 意見発表者 | コロナで首都圏からの地方への移住者が増えているという流れがあるが、いかにしていち早く福島県に引き込むかというところで、魅力発信が重要と考える。<br>デジタル化が進んで、どこにいても仕事が成り立つ人に関しては、安心して過ごしやすい街で毎日を過ごしたいと思う。<br>都会の狭いところで暮らすよりも、田舎の広いところで生活したいというのが理想だと思うので、そういった人たちに福島県の魅力を発信することが大切と思う。 | 定住        |
| 17 | 県中地域 | 意見発表者 | 福島は首都圏からのアクセスはいいが、それだけではなく、暮らしやすい町づくりが大切。5Gなどの通信インフラ整備等もいち早く行って、そういった人たちが来やすくなる環境を整備することが大事と思う。  | 定住        |
| 18 | 県中地域 | 意見発表者 | 新型コロナに感染しないために、なるべく人と接触しないというのは当然だが、全てがWebを通した形になってしまうと、メンタル的にも、おかしくなってしまうのではないかと心配がある。  | その他       |
| 19 | 県中地域 | 意見発表者 | 建設事務所では、情報共有システムを使って、書類はわざわざ届けなくても、メールでのやり取りだけでよいか、国土交通省では、コロナ以前は現場で実際に監督員が立ち会っていたところ、新型コロナ後は、ビデオカメラや携帯のカメラを利用して、リモートでの立会い確認を可能としますという風になった。<br>このような対応を進めていけば、建設業においても人と人との接触というリスクを減らしていけると考える。              | インフラ復旧・整備 |
| 20 | 県中地域 | 意見発表者 | 新型コロナでの福島県の弱みとしては、建設業における人材不足や、材料関係の地産地消が弱いと感じている。   | インフラ復旧・整備 |
| 21 | 県中地域 | 意見発表者 | 建設業としては、人あつての仕事なので、測量会社とか調査会社のようにテレワークを行うということができない。また、人材や材料のロスが大きすぎるため、工事は止めることができない。   | インフラ復旧・整備 |
| 22 | 県中地域 | 意見発表者 | コロナの影響で、地方への移住に関する関心が高まっている。それと同時に、地方の若者の東京志向というのも弱まっていると思う。<br>そういう方たちに県内に興味をもってもらい、人口流出を抑えるチャンスではないかと感じている。そういう意味で、県内での進学とか就職のPRを押し進めていただきたい。  | 定住        |
| 23 | 県中地域 | 意見発表者 | オンラインの移住相談・空き家相談は最初の入り口の段階としてはとても有効だと思う。   | 定住        |
| 24 | 県中地域 | 意見発表者 | 県の支援をいただきながら、PCR検査機器を病院に入れているが、まだまだ十分に整備されていないので、引き続き、整備の支援をしていただきたい。  | 健康・医療・福祉  |
| 25 | 県中地域 | 意見発表者 | 医療従事者や、感染者、検査を受けた方についても、偏見や差別があると聞いている。<br>そういうところについても、どのように対応していったらいいのか、地域の方にも普及啓発をしていかななくてははいけない。   | 健康・医療・福祉  |
| 26 | 県中地域 | 意見発表者 | 冬になると、インフルエンザやノロウイルスなど発熱を起こす病気がとても多くなる。<br>そこら辺の鑑別診断の問題も多く出てきて、現場の負担が増すと思っている。   | 健康・医療・福祉  |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野       |
|----|------|-------|--|----------|
| 27 | 県中地域 | 意見発表者 | 新型コロナ対応で、人と関わらないようにしていくという取り組みも必要だと思うが、地域とのつながりが希薄になってしまったという心配がある。これまで色々進めてきた地域包括ケアなどの施策に逆行することになっているので、そういうところを考えながらやれるといい。  | 健康・医療・福祉 |
| 28 | 県中地域 | 意見発表者 | 地域の病院では「発熱していると受診できません」と、断る病院もとても多い。そのため、患者が発熱していることを隠して一般外来を受診するようになってきている。そういうことがあると、他の患者に気がつかない間に新型コロナをうつしてしまう可能性があるため、危機管理上、すごく問題があると感じている。  | 健康・医療・福祉 |
| 29 | 県中地域 | 意見発表者 | 新型コロナの患者が入院した時は、看護師の精神的な負担が大きい。ずっとそれを続けるというのが相当な負担になってくる。一人の患者に対し、一人のスタッフが、他のスタッフと隔離されて、かかりきりになるので、そのスタッフの本来業務を他の看護師がしわ寄せで担わなくてはならない。そのため、他の看護師の業務量も全体的に増加している。また、新型コロナの患者に関わる際は防護服を着て対応するが、家族にもうつしたくないとか、周囲から色々と言われるので、その期間は、違う所に泊まるというスタッフもいた。こうした医療従事者、現場の負担も知っていてほしいと思う。 | 健康・医療・福祉 |
| 30 | 県南地域 | 意見発表者 | 子供たちが中学校まで通う義務教育は一律でなければならない。福島県として、市立公立関係なく対応は全部一緒にしてもらいたい。   | 教育       |
| 31 | 県南地域 | 意見発表者 | 今後に備えてタブレット1台ずつ子供たちに配布することは決まったようだが、それを使用して指導する先生方の研修等も必要ではないか。また、タブレットのバージョンアップの経費はどうするのかという課題がある。  | 教育       |
| 32 | 県南地域 | 意見発表者 | 子供たちにとって現実はどう向き合いかという、生きる姿勢を大人が見せるということが今回1番大事だと感じた。   | 教育       |
| 33 | 県南地域 | 意見発表者 | デザイン会社は東京とかでないといけないというイメージがあるが、パソコンで作業して納品できるという部分ではどこでもできる仕事なので、コロナ禍で都市部から地方への移住者が増えると思う。   | 定住       |
| 34 | 県南地域 | 意見発表者 | 鮫川村では、自粛で健康づくりの意識が低下しているということで、午後3時にラジオ体操の音楽を流すようにしたが、数カ月たった今では取り組んでいる人は少ない。健康づくりをどのように継続していくかが課題だと思う。   | 健康・医療・福祉 |
| 35 | 県南地域 | 意見発表者 | GIGAスクール構想で児童生徒にタブレット1台ずつ配布するようだが、そのタブレットを活用して、例えば、診療をオンライン化する際に、タブレットを使えないお年寄りを小学生や中学生が支援するという活用ができないか。   | 健康・医療・福祉 |
| 36 | 県南地域 | 意見発表者 | 地産地消の部分で、鮫川村では1人1万円で地元の飲食店やお店で使える商品券の発行したが、とても好評で経済効果もあった。また予算化していただけたらありがたい。  | 産業・雇用    |
| 37 | 県南地域 | 意見発表者 | 緊急事態宣言が出され、弊社にも未就学児童とか、小学校中学校の保護者が約半分いるため、最大で1ヶ月強休まざるを得なくなった。従業員はいろいろな給付があり補償はしているが、企業としては売り上げが落ちるわけで、影響が非常に大きかった。   | 産業・雇用    |
| 38 | 県南地域 | 意見発表者 | 次代を担う子供たちを最優先に対策をまずは考えてほしい。  | 教育       |
| 39 | 県南地域 | 意見発表者 | 企業のコロナ支援対策について、もう少し福島県ならではの産業界への支援施策を考えてほしい。   | 産業・雇用    |
| 40 | 県南地域 | 意見発表者 | コロナ中に自分が感じたのはすごく田舎はとも恵まれている。まず食べ物はなくなるし、ソーシャルディスタンスもほとんど自然に保たれている。   | その他      |
| 41 | 県南地域 | 意見発表者 | 例えば、画家をしているけど農業やっている等、仕事を幾つも掛け持ちする人がとても増えている。コロナ禍のなか、都会で暮らす必要があるのかという風潮があるので、そのような人たちが何を求めているのかを掴めたら田舎はもっとおもしろく展開していく。   | 定住       |
| 42 | 県南地域 | 意見発表者 | コロナ対策は、我々はどうしても行政にあれやれこれやれと言いがちになるが、それだけではおそらく解決しないと思う。やはり我々も責任ある行動が必要だし、すべての方々相互扶助の精神で共助しながら立ち向かっていく必要があると思う。   | その他      |

| No | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野       |
|----|------|-------|--|----------|
| 43 | 県南地域 | 意見発表者 | 行政は、例えば学校や団体、事業所に対して定期的にどのようなコロナ対策を継続しているか、新しい対策しているか等、積極的に確認すると良いのではないかと。   | その他      |
| 44 | 県南地域 | 意見発表者 | 1年後でもコロナは多分なくなっていないと思うが、そのときに、今年中止した花火大会や夏まつりをまたやらないのかという間にどう答えるのが今後の課題。   | 地域づくり    |
| 45 | 会津地域 | 意見発表者 | コロナウイルスが今蔓延してきて、経済活動においてもいろんな会合が中止、もしくはZOOMなどのオンラインを併用しての会合を実施しているのが現状で、最近では会津管内でも発症者が出てしまったので、より慎重な行動が求められている。  | 産業・雇用    |
| 46 | 会津地域 | 意見発表者 | 各企業でも、慎重論と経済は経済でなるべくコロナと向き合っていこうという意見と両方相まっている状況だが、特に会津若松市というのは、飲食業も全国においてかなり多い都市といった中で、外食が滞ると会津経済への問題も大きくなってくる。   | 産業・雇用    |
| 47 | 会津地域 | 意見発表者 | 感染者が出てしまった以上はどのように情報公開していくのか、誹謗中傷するというようなことではなく、その感染経路や自分たちの身を自分で守るというような方向からやっていただきたい。(会津若松市は中核市ではないため、保健所が県の機関であることから、会津若松市の情報が余り開示されないというようなことが問題にもなっており、情報公開の面でも何か考慮していただく必要がある。)  | 健康・医療・福祉 |
| 48 | 会津地域 | 意見発表者 | 喜多方商工会議所では、6月くらいから安心カードという飲食店向けのコロナに対するガイダンスでの対策の普及に取り組んでいるが、これまで会津管内での感染者が発生していなかったこともあり、地域全体の危機感が足りず、きちんと浸透していない。  | 産業・雇用    |
| 49 | 会津地域 | 意見発表者 | PCR検査と抗原検査については、希望する方がやれる仕組みを福島県は提唱していただきたい。検査がスムーズにできない、どこでやっていいかわからない、というのが現状。症状がある方はかなり心配されるため、その方たちが簡単に検査を受ける、そういう権利があるということは福島県民として大変ありがたい。                                       | 健康・医療・福祉 |
| 50 | 会津地域 | 意見発表者 | コロナ対策の1つは投薬だが、今認可されているのが注射薬で、これからワクチンとか薬とか加わってくるが、原点に立ち返ってみると、例えばインフルエンザや肺炎球菌のような、コロナウイルスよりもはるかに何倍も死亡する疾患にも関わらず、コロナ対策だけが過剰になりすぎている。インフルエンザも肺炎球菌も、コロナウイルスも同じようにちゃんと正しく恐れることが大事である。      | 健康・医療・福祉 |
| 51 | 会津地域 | 意見発表者 | 新型コロナウイルスの毒性はインフルエンザウイルスと比べるとはるかに低い、感染力については高いという厄介なウイルスであり、コロナウイルスの抑え込みに成功した国・地域は一つもない。   | 健康・医療・福祉 |
| 52 | 会津地域 | 意見発表者 | 現実問題として、押さえ込むのは無理なので、じわりじわりみんながかかってくいしかない。いきなり感染者が拡大すると病院がパンクしてしまうため、極論としては収束していくためにはじわりじわりいい感じにかかってくいしかなくていくと集団免疫で収まってくい。   | 健康・医療・福祉 |
| 53 | 会津地域 | 意見発表者 | PCR検査については、無症状者のPCRは難しい。厚生労働省は否定していないが、感染症の学会などでは否定的な意見もたくさんある。無症状者にPCRやって陰性が出たからと言って、本当に体にウイルスがないかどうかは、かなり危ない(保菌者であるケースもたくさんある)。  | 健康・医療・福祉 |
| 54 | 会津地域 | 意見発表者 | 軽症者と無症状陽性者については、感染症二類相当に入ると入院させざるを得ない病院の現状があるが、そうすると会津の3病院は簡単にパンクする。軽症者や無症状陽性者は自宅待機もしくはホテル待機という対応を積極的にやってくいかなないとなかなか難しい。   | 健康・医療・福祉 |
| 55 | 会津地域 | 意見発表者 | 「不都合な情報とか悲しい話を真に受けたがる、人間はそうそういう傾向がある、情報を正しく読み解く力が必要」という本を読んだことがあるが、まさに新型コロナに対する正しい情報と知識を得て、どう自分自身がどう生きるかというのをしっかりと持っていかなければいけない。歴史はこうして作られていき、これからもコロナだけではなくいろんなことが起きて乗り越えていかなければいけない。 | その他      |
| 56 | 会津地域 | 意見発表者 | 学校教育や子供が小さいころから、こういうときに自分はどう考えるべきかというところしっかり教えていくべき。震災の風評被害であれだけ私たちはつらい思いをしたのに、やはりコロナに対して人を誹謗中傷してしまうというのがとても悲しい。   | 教育       |
| 57 | 会津地域 | 意見発表者 | 防災や減災に加え、感染症対策も含めて、何かあったとき自分たちはどう動くべきか、人としてどう生きるべきか、子供から年寄りまできちんと考えていきたい。  | その他      |

| No | 地域    | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|----|-------|-------|--|-----------|
| 58 | 会津地域  | 意見発表者 | コロナ禍の一方で非常にチャンスでもある。セミナーや勉強会など、すべてオンラインになったというところで、地方にいながら知識が得られる。しかしながら、デジタル化とIT弱者というが、Wi-Fi環境やネット環境がない家庭もたくさんある。   | インフラ復旧・整備 |
| 59 | 会津地域  | 意見発表者 | 廃校など空き施設(校庭など敷地内も含めて)にオンライン整備をすると、IT弱者の方たちも通えたり、企業移住や2拠点居住でのテレワークの拠点にすることも可能である。   | インフラ復旧・整備 |
| 60 | 会津地域  | 意見発表者 | コロナについては、お年寄り世代とか既往歴がある方に感染したら非常に重症化リスクがある。若い世代で動いて、そして自分たちが地域のお年寄りと関わる時にどこに気をつけるべきかを整理すると、動けるところと動けないところ、動ける範囲が世代によって多分見えてくるので、整理して動ければ非常にいい。                             | 健康・医療・福祉  |
| 61 | 会津地域  | 意見発表者 | 大学生が今すべてオンライン授業になったので非常に圧迫を感じているため、今地方に研修や研究のゼミに行きたいという声がたくさんある。受け入れる側も若い世代のチームでプロジェクトを組んで何か動ければいい。  | 教育        |
| 62 | 会津地域  | 意見発表者 | コロナ禍にあつて、地域の皆さんに迷惑かけたくないという意識を移住者は非常に持っている。また、基本的に昔ながらの集落というのは今は対外的に人を入れたくないという意識が強いが、それはしょうがない。   | 定住        |
| 63 | 会津地域  | 意見発表者 | オンラインでの内覧会や相談会等については、やる目的をしっかりと決めないといけな。オンラインでどこまで移住したいと思わせるかどうか、あとオンラインでどこまで町の人と関わらせることができるかどうか、いざ来たときにスムーズに移住につながるような段取りが組めるかどうかが重要である。                                  | 定住        |
| 64 | 会津地域  | 意見発表者 | どこにゴールを持っていくかを考える必要があり、移住したい移住したいと思わせるけれど、そこがストレスにならないように、例えば地域の情報、地元の人とかに実際登場してもらったり、風景を見せてあげたり、お互い共有しながら、事実だけではなくて、心の何を思っているかということもくみ取れるようなオンラインの会議のやり方でないと、非常にストレスを与える。 | 定住        |
| 65 | 南会津地域 | 意見発表者 | 個人個人が人にうつさない対策をする。3密な場所をさける、手指の消毒をこまめにするなど、今まで言われていることを愚直にし続ける事が感染予防につながると思う。  | 健康・医療・福祉  |
| 66 | 南会津地域 | 意見発表者 | 接触確認アプリ(COCoA)の利用者を増やすように、官民一体となって啓蒙し、アラームが出たらスムーズに検査を受けられる体制をつくる必要がある。  | 健康・医療・福祉  |
| 67 | 南会津地域 | 意見発表者 | 感染予防のためには、公共サービスのオンライン化や、選挙のオンライン投票、人が集まる事を避ける必要がある。   | 健康・医療・福祉  |
| 68 | 南会津地域 | 意見発表者 | 誹謗中傷など悲しい話を耳にするようになった。新しい生活様式を呼びかけるポスターのピクトグラムに「やさしさ」や「早く治るといいね」の言葉をプラスしてはどうか。   | 健康・医療・福祉  |
| 69 | 南会津地域 | 意見発表者 | 未就学児や就学児、学生への感染予防を周知してするための教育が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 70 | 南会津地域 | 意見発表者 | 新しい生活様式をもっと楽しく実施できるような県民への簡単でインパクトのあるアドバイスや広報活動が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 71 | 南会津地域 | 意見発表者 | 感染防止を呼びかけるポスター、チラシの配布が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 72 | 南会津地域 | 意見発表者 | 外出の際は、マスクの着用と手洗いなどの防止策を各自徹底するよう指導が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 73 | 南会津地域 | 意見発表者 | 集会所など、三密になりやすい場所では感染防止策を十分に行う必要がある。  | 健康・医療・福祉  |
| 74 | 南会津地域 | 意見発表者 | 福島県は基本的に人口密度が低いので、屋外ではそれほど気をつかわなくても感染のリスクは低かった。  | 健康・医療・福祉  |
| 75 | 南会津地域 | 意見発表者 | 林産業においては地産地消を推進しているの、地産外消をしているような大型工場の様な経済のあおりを受けにくい。しかし、今後は心配である。   | 農林水産業     |
| 76 | 南会津地域 | 意見発表者 | 大自然の中、安価な土地がたくさんある。東京一極集中を打破する良い機会だと思う。田畑が多く買い物に行かなくても、自家野菜、米、山菜などで生活できる。コロナで外出自粛になっても、関係なく畑仕事ができるのが強み。  | 定住        |
| 77 | 南会津地域 | 意見発表者 | 浜中会津と3地域に分かれていることで、県民の移動が地域内となり、ある程度の感染対策は有効に実施されたのではないかと思う。(各個人の生活圏内での生活が出来ていた。)  | 地域づくり     |
| 78 | 南会津地域 | 意見発表者 | 農業においては、東京のような大消費地が近く、アクセスがよい点が本県の強み。  | 農林水産業     |
| 79 | 南会津地域 | 意見発表者 | 海、山など多様な自然があり四季がはっきりしているところがよい。  | 観光・交流     |
| 80 | 南会津地域 | 意見発表者 | 特に、会津地方は観光が重要な産業であるので、宿泊施設や観光地の経営は危機的状況にある。  | 観光・交流     |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|-----|-------|-------|--|-----------|
| 81  | 南会津地域 | 意見発表者 | 感染対策を万全にしている施設の差別化や、持続化給付金の積み増しなど、アフターコロナを見据えた対策をとる必要がある。このままいくと、県内産業に壊滅的な影響を及ぼす。  | 産業・雇用     |
| 82  | 南会津地域 | 意見発表者 | クラフトビール製造において、売り上げが減っている中で通信販売もしたいが、県外の有名醸造所も参画しており競争激化、南会津からの運賃の面でも不利な状況にある。  | 産業・雇用     |
| 83  | 南会津地域 | 意見発表者 | 道路のインフラ整備、移住しても食べて生活できる仕事の確保、移住してきた方と、地元の方の橋渡しなどが課題。   | 定住        |
| 84  | 南会津地域 | 意見発表者 | 第二波で会津地方も感染者が15名以上となり、会津地方の病院もひっ迫する可能性がある。この第二波を事前に防ぐもっと有効的な対策はなかったか検討すべき。   | 健康・医療・福祉  |
| 85  | 南会津地域 | 意見発表者 | 農業の後継者不足や、温暖化により環境が変わりつつあることが課題。   | 農林水産業     |
| 86  | 南会津地域 | 意見発表者 | 建設業は、法律的にも現場を離れる事は出来ないの、リモートワークを始めとする働き方改革は大変むずかしいが、それでも今まで顔を合わせてしていた打ち合わせもリモートにするとか、県の方でも現場への遠隔臨場など様々対策をとるようなので、情報共有システムの活用をはじめとするIT化をこれを機会にインフラを含め加速させて行きたい。 | インフラ復旧・整備 |
| 87  | 南会津地域 | 意見発表者 | 在宅勤務が出来るのはデスクワークのみであり、現場労働者の働き方を変えることは難しい。   | インフラ復旧・整備 |
| 88  | 南会津地域 | 意見発表者 | 公共工事などでも工事期間を延ばし、期間短縮のために労働者を大量に現場に入れるような状況を作り出さないようにし、年度を跨いだ工期の設定をしなければいけない。  | インフラ復旧・整備 |
| 89  | 南会津地域 | 意見発表者 | 東京一極集中から、田舎暮らしに人口大移動ができればよい。テレワークも夢ではないし、普段テレワークの生活でも良いし、週末だけ畑仕事をしに来る生活も良いと思う。   | 定住        |
| 90  | 南会津地域 | 意見発表者 | SNSを県民が活用しやすいような環境づくりを活性化させる取組が必要。   | その他       |
| 91  | 南会津地域 | 意見発表者 | 定年退職した方でも技術、見本となるような方々が沢山いる。そのような県民の宝と言え人をもっとうまく活用し、一般職員が有給休暇などの取得しやすい環境をつくる取組が必要。   | 産業・雇用     |
| 92  | 南会津地域 | 意見発表者 | 福祉の現場では人手不足が深刻だが、未経験でも就業しやすい環境づくりを構築できる取組が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 93  | 南会津地域 | 意見発表者 | フレックスタイム、休暇制度の拡充を行うに当たり、畜産農家、野菜農家など、休みが取れない業種に対応できるヘルパー制度の導入や、テレワークできる環境を整える必要がある。   | 産業・雇用     |
| 94  | 南会津地域 | 意見発表者 | 東京で初めて人口減が見られたとのニュースがあったが、SOHOなど、都会にいらなくても仕事出来る環境が整ってきた。   | 定住        |
| 95  | 南会津地域 | 意見発表者 | 町を散策していると空き家かなり多くなっている。前から取り組んでいる事だが、空き家再生を積極的に進め、移住者には格安で貸し出すなり、何年かは無償にするなどの方策をとってはどうか。   | 定住        |
| 96  | 南会津地域 | 意見発表者 | 今の時代、SNSで情報を発信し広報を強化しないと競争に負けてしまう。大変生活のしやすいところだと言うことを積極的にアピールする必要がある。  | 定住        |
| 97  | 南会津地域 | 意見発表者 | まずは東日本大震災の原発事故での放射能汚染のイメージの払拭。これを踏まえたうえで国、東電が、移住、本社機能移転などの個人、企業への十分に足る移転協力金制度をつくらせたり、また、その後の税制優遇も必要。   | 定住        |
| 98  | 南会津地域 | 意見発表者 | 週末の田舎暮らしから勤めるとか、空き家を使って3日間生活体験など、移住までしなくても空き家を季節ごとに住居を代えて住むなど、サブスクリプションにすると、若い方は飛びつきやすいかもしれない。   | 定住        |
| 99  | 南会津地域 | 意見発表者 | 田舎暮らしで疲れて出て行ってしまっているのが現実。役場の方や移住コーディネーターの方から移住されてきた方への声かけや、地元の方との橋渡しも重要だと思う。   | 定住        |
| 100 | 南会津地域 | 意見発表者 | 南会津は雪が多く、この地方ならではのしがらみなどで、移住しても移住者は大変な思いををすると思う。そこで、移住者のストレスを解消できるような取組が必要。  | 定住        |
| 101 | 南会津地域 | 意見発表者 | 福島県に移住して起業すれば良いことがあるような起業者がプラスになる柔軟な取組みやベンチャー企業への補助が必要。  | 定住        |
| 102 | 南会津地域 | 意見発表者 | 福祉業界への就職支援や包括的なアドバイス事業が必要。   | 定住        |
| 103 | 南会津地域 | 意見発表者 | 通信環境の整備や、本社機能移転のための費用の助成が必要。   | 定住        |
| 104 | 南会津地域 | 意見発表者 | デジタル化は事業計画やビジネスにおける高度な意思決定がしにくい。人と人の繋がりが希薄になってくる。  | その他       |
| 105 | 南会津地域 | 意見発表者 | 操作が難しくてわからないのだと思う。例えば高齢者はエアコンが嫌いなのではなく、操作ボタンが多くカタカナ文字で意味がわからないからと聞いたことがある。デジタル化にするならば、カタカナ文字を使わず、簡単な操作だけの方がわかりやすい。   | その他       |
| 106 | 南会津地域 | 意見発表者 | 孤独感が大きくなりストレスを感じる事が課題。   | その他       |
| 107 | 南会津地域 | 意見発表者 | センサー付きカメラ等の活用でプライバシーの配慮が必要。  | その他       |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等   | 分野        |
|-----|-------|-------|---|-----------|
| 108 | 南会津地域 | 意見発表者 | 日本らしさ、文化の衰退が懸念される。  | その他       |
| 109 | 南会津地域 | 意見発表者 | コロナ感染症対策に、デジタル化は有効と思われるが、そのことによる地域でのコミュニケーションの減少は、農村の崩壊が懸念される。  | その他       |
| 110 | 南会津地域 | 意見発表者 | 緊急時のお知らせや家の見守りなど生きるためのインフラ整備経費を全額負担していただきたい。  | インフラ復旧・整備 |
| 111 | 南会津地域 | 意見発表者 | 最近では、スマホなどでもシニア向けの機種が発売されるなど、使い勝手がよくなってきている。高齢者世帯には、そのようなスマホやタブレットを全戸配布し、市町村の福祉関係の職員が使い方を指導するなどして、外との繋がりを切らさないようにしてはどうか。  | インフラ復旧・整備 |
| 112 | 南会津地域 | 意見発表者 | 小学校低学年からタブレットを配布し、デジタル黒板などの導入を開始し、ITに触れさせること。すぐは出来ないで世代単位での改革をするしかない。何年か経てばみんなタブレットなどを使えるようになる。   | 教育        |
| 113 | 南会津地域 | 意見発表者 | 出来ない人へは今までと同じサービスを継続する。ITの弱者なだけであって現在の生活を続ける上では、出来ない人、やらない人も問題ない。全員にやらせなくとも良い。それは将来的な話である。  | その他       |
| 114 | 南会津地域 | 意見発表者 | デジタル化は便利で良いが、付いていけない高齢者も多い。アナログ対応とデジタル化の二通りの取組みが必要だと思う。便利になる一方で、おいて行かれてしまう方に寄り添うことも必要。  | その他       |
| 115 | 南会津地域 | 意見発表者 | インターネット環境の整備は新しい生活様式となりつつある現在では電気・水道のようにインフラ事業の分類の最重要項目となる。この重要なインフラを各世帯、個人により普及させるために助成が必要と思われる。   | インフラ復旧・整備 |
| 116 | 南会津地域 | 意見発表者 | デジタル化の推進にはソフト面での充実化も必要と思われる。高齢者、IT知識のない方が、知識をつける教育や、そのような方々への代行サービス支援が必要と思われる。  | その他       |
| 117 | 南会津地域 | 意見発表者 | 例えば健康管理を考えるとき、リモート操作できるカメラやセンサーを活用し、毎日の生活状況を定期的に見守る必要がある。   | 健康・医療・福祉  |
| 118 | 南会津地域 | 意見発表者 | 史跡の周りを歩くとか、ハイキングに行くとか、湖の周りを歩いたり走ったり、自転車で回ったり車に頼らず、体を動かす事で医療費は削減されるし、自分自身の生活の質が長く保てる。  | 健康・医療・福祉  |
| 119 | 南会津地域 | 意見発表者 | 長生きできるなどのメリットを伝えて、例えば、携帯電話の位置情報を利用したスタンプラリーをして、ポイントがたまったら何かプレゼントをするなど、運動習慣を定着させてはどうか。   | 健康・医療・福祉  |
| 120 | 南会津地域 | 意見発表者 | 県民運動として、各町内放送でラジオ体操を流せば良いと思う。誰もが曲が流れてくれば、自然と体を動かすし、ラジオ体操は日本人ならみんな出来る。   | 健康・医療・福祉  |
| 121 | 南会津地域 | 意見発表者 | テレワーク中の、座ったままでも出来る体操を作ったり、家の中でも家族と出来る体操などを作っても良いと思う。お笑い芸人と体操を広めたり、福島県にゆかりのある芸能人の方とコラボしたりしても良い。  | 健康・医療・福祉  |
| 122 | 南会津地域 | 意見発表者 | 民間事業者のスマホアプリサービスのように、歩くことでポイントがたまるような福島健康アプリなどを開発し、独自の「ふくしまポイント」を設置し、買い物などに活用できれば、健康づくりに対しての意識も高まり、少しではあると思うが商店等の活性化にも役立てられるのではないかな。  | 健康・医療・福祉  |
| 123 | 南会津地域 | 意見発表者 | 健康年齢をより長くするには、十分な運動と休息、心のゆとりが必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 124 | 南会津地域 | 意見発表者 | 感染拡大を防止しながら十分な運動ができる環境づくり(キャンプ場、サイクリングロードの整備、ウォーキングコースの拡充など)が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 125 | 南会津地域 | 意見発表者 | サプライチェーンについて、必要になれば東日本全体から自ら調達すると思うが、それができなくなれば、事業中断期間に対して事業継続補助金を充当することが考えられる。供給できない原因が海外なら、事業者が判断して安全な事前の調達を考えるとと思う。  | 産業・雇用     |
| 126 | 南会津地域 | 意見発表者 | 医療機器に限定して県が自らサプライチェーンを確保するために補助を出すことも考えられる。   | 産業・雇用     |
| 127 | 南会津地域 | 意見発表者 | 日本国中がコロナ過の中、新たなサプライチェーンをつくる事は難しい。商品販売が途切れたかも知れないが、つながりは途切れていないはずであり、既存のサプライチェーンとのつながりを無くさない事が大事。買ってくれないのではなく、売れないから買えないはず。新たなサプライチェーン構築はコロナ以前に今まで業者が行ってきた営業活動と同じにやっていくしかない。 | 産業・雇用     |
| 128 | 南会津地域 | 意見発表者 | 集落ごとに、料理の名人や民芸品を作る名人がいるが、商品として売るには保健所の許可などいろいろ敷居が高い。町ごとにレンタルキッチン的なものを作り、間借りキッチンで作って販売したり、南会津地域の商品をオンライン商店街として紹介しても面白いと思う。   | 産業・雇用     |
| 129 | 南会津地域 | 意見発表者 | FGAPをもっと有効的に活用する取組みや、独自ルートの開拓が必要。   | 農林水産業     |
| 130 | 南会津地域 | 意見発表者 | 小規模農家の方々の支援を行う事で、小規模農家を活性化させる。そのことで、少量の流通ルートに対応できる農業者を育成することにより、今回のような問題を最小限に食い止めることができるのではないかな。  | 農林水産業     |
| 131 | 南会津地域 | 意見発表者 | 障害者施設での農業の取り組み(農福連携)も是非参考にして頂きたい。   | 農林水産業     |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等   | 分野       |
|-----|-------|-------|---|----------|
| 132 | 南会津地域 | 意見発表者 | 観光と農業を結ぶ体験型観光の拡充とPRが必要。   | 観光・交流    |
| 133 | 南会津地域 | 意見発表者 | 高齢者の割合が高まる中で、日用雑貨品を移動販売車で販売する需要があると思われる。  | 産業・雇用    |
| 134 | 南会津地域 | 意見発表者 | ワクチンが開発されれば、首都圏の需要が増えるだろうから、注視する必要がある。  | 健康・医療・福祉 |
| 135 | 南会津地域 | 意見発表者 | 様々な給付金なり助成金が示されているが、申請が難しかったり、条件が厳しかったりしてなかなか使えないとの声を聞く。もう少し簡素化して困っている事業者等にいきわたるようにしてもらいたい。   | 産業・雇用    |
| 136 | 南会津地域 | 意見発表者 | 医療機関に対する支援が遅れているとの報道をよく目にするが、このような事態で、一番重要な医療機関が経営の危機に瀕しているなどあってはならない。速やかな支援、また増額が必要であると思う。   | 健康・医療・福祉 |
| 137 | 南会津地域 | 意見発表者 | 周りの目やうわさが気になり、疑わしい症状だけど診療に行けないことがある。差別的なことを無くすための広報をしたり、かかった人たちへの精神的な支援や実生活での支援(見舞金を出すなど)が必要。   | その他      |
| 138 | 南会津地域 | 意見発表者 | スーパー、薬局、酒店、ガソリンスタンド、生活に必要で営業してくれていたお店、感染と隣り合わせて働いてくれていた方の支援が必要。   | 産業・雇用    |
| 139 | 南会津地域 | 意見発表者 | 今支援しないと無くなってしまふ特産品もあると思うので、地産地消を推進している事業者への支援が必要。   | 産業・雇用    |
| 140 | 南会津地域 | 意見発表者 | ふくしまEC送料支援はネットからの注文のみ対象であり、ネットを使えないお客様は対象外のため、アナログで頑張ってる事業者のDMの送料支援や、DMから注文したお客さまも送料が無料になる支援を強く望む。  | 産業・雇用    |
| 141 | 南会津地域 | 意見発表者 | 障害者施設など医療・介護・福祉の現場では新型コロナの影響で従業員がストレスを感じてる。また、新しい生活様式に柔軟に対応していかなければいけないという重圧もある。このため、ソフト面の支援、ハード面の支援が必要。  | 健康・医療・福祉 |
| 142 | 南会津地域 | 意見発表者 | 減収を判断する線引きをもう少し柔軟に考えてほしい。   | 産業・雇用    |
| 143 | 南会津地域 | 意見発表者 | 最近県内でも感染者が増加し、会津若松での増加が顕著になっている。県の感染状況の発表の仕方について、個人情報保護はもちろん大切だが、内容があまりにも少なく、我々の知りたい事が分からない。例えばどういう職場(業種)の人だとか、どういう感染経路なのか、分かっている事は公表してもらいたい。感染者を雇用している法人が情報を発表しているのに行政が何も言わないのはおかしい。 | 健康・医療・福祉 |
| 144 | 南会津地域 | 意見発表者 | 「行動歴及び濃厚接触者については〇〇保健所で調査中」と必ずついていますが、濃厚接触者はともかく、行動歴は判明した時点で公表すべき。そうすれば県民も気を付けなければいけない場所や状況が把握しやすくなる。  | 健康・医療・福祉 |
| 145 | 南会津地域 | 意見発表者 | 福祉業界は低賃金で職員は必死で頑張っている。現場では、感染対策による緊張感ばかり知れないものがある。障がい者は普通に施設に通所し、普通に日常生活を送ることが一番の喜び。このような福祉施設や障がい者も、今回の新しい生活様式の中で取り組んでいることを周知して頂きたい。  | 健康・医療・福祉 |
| 146 | 相双地域  | 意見発表者 | 罹患した方や医療従事者への差別的な扱いがあると聞き、震災・原発事故被災者への扱いとよく似ていると感じた。また、コロナ禍による大きなダメージは、大震災の被害を遠く過去のものとした感がある。さらに、被災町村・当事者の生活再建はまだ道半ばで、さらに災難を被っている状況で、これから様々な場面で復興の遅れを感じるようになるかもしれない。                  | 風評・風化    |
| 147 | 相双地域  | 意見発表者 | 見えないものに対峙することに関しては、原発・放射能を経験した福島県民だからこそ強みを発揮できると考えるが、感染症対策に共通点を見出し、かつての経験を活かすことによる情報発信やイノベーティブなビジネス等が生まれていない(原発を思い出して奮起するようなムーブメントや機運が醸成したわけではない)現状に疑問を覚えている。                         | 風評・風化    |
| 148 | 相双地域  | 意見発表者 | 被災時に放射能を怖いと感じたのと同じように、目に見えないウイルスへの恐怖がある。放射能は風評被害が大きかったが、コロナウイルスは死に直結するため多くの方がより不安かつ敏感になっていると感じた。  | 風評・風化    |
| 149 | 相双地域  | 意見発表者 | コロナ禍は、農産物等をオンラインで販売する好機でもある。  | 農林水産業    |
| 150 | 相双地域  | 意見発表者 | 売れ行きが減少した商品がある一方、かえって売れるようになった商品もある。例えば、今まで買っていなかったマスクや消毒液等の生活衛生品などにも0可処分所得が使われ、外食や観光や感染症対策に安心を持ってないところでの消費は無くなった。お金の流れが変わってきていると感じる。   | 観光・交流    |
| 151 | 相双地域  | 意見発表者 | これまで国が率先してきたインバウンドを含む観光産業、製造業におけるサプライチェーンの崩壊と再構築、小売業、サービス業など産業全体にコロナ禍が影響している。多様化するリスクをどの程度受け入れられるのか、個人によって違うその許容レベルについて相手を尊重しあえるのか等、様々な問題が表面化してくると考える。                                | 観光・交流    |



| No  | 地域   | 発言者   | 意見等   | 分野    |
|-----|------|-------|---|-------|
| 152 | 相双地域 | 意見発表者 | 新地町の海水浴場が開かなかったことは、とても残念であった。相双地区の強みは海があること。町民限定など、やり方はいろいろあったのではないかと思う。  | 観光・交流 |
| 153 | 相双地域 | 意見発表者 | 新地町には釣師防災緑地公園のキャンプ場・バンブトラックなど、新しいスポットが生まれている。海に来た人を、里や山にも流れて行けるようなルートを相双地域として作っていけるといいと考える。   | 観光・交流 |
| 154 | 相双地域 | 意見発表者 | いわなの郷へ乗客が例年以上に増えている。釣堀だけでなく、キャンプもかなり増えた。この夏は感覚的には例年の2倍。どこかに行きたくても、なかなか行きにくいのが現状だと思い知る。「遠出より近場、箱物より自然へ」とシフトすることは、コロナ後も変わらないようにも感じる。  | 観光・交流 |
| 155 | 相双地域 | 意見発表者 | 今はオンラインではできないことも、いずれVR(仮想現実)技術が発達してある程度できるようになることを望む。オンラインとオフラインの使い分けは、昔の音楽鑑賞をレコードで聴くかコンサートで生演奏を聴くかのレベルで選択できればと思う。  | 観光・交流 |
| 156 | 相双地域 | 意見発表者 | 川内村の魅力は人と自然と常々考えている。屋外活動をふんだんに楽しめるのは大きな魅力。いわなの郷でもキャンプはずいぶん増えた。コロナショックでたくさんの方に来て頂いている。極寒キャンプも総勢20名程度であり、感染拡大防止に配慮すれば十分催行できる。海釣りやキャンプといった既存のアクティビティ以外に、少人数でもできるイベントや高付加価値のツアーも魅力的だ。また、人の魅力はその人に触れることで伝わると考える。             | 観光・交流 |
| 157 | 相双地域 | 意見発表者 | 常に感染リスクを意識し、県外にはいかななくなり、お取り寄せ等が多くなった。しかし、行動範囲が狭くなった分、県内や身近な地域の良さに目を向ける機会が増えた。家族以外の人との交流は最小限になり、冠婚葬祭の出席も最小限にしている。これからは様々な文化や生活様式の在り方が急激に変革すると思う。また、仕事面では、住民への直接的な支援の在り方を大きく変えていかなければならず、戸惑いを感じている。                       | 観光・交流 |
| 158 | 相双地域 | 意見発表者 | 人との交流、つながり方、かかわり方、仕事のスタンスなど、従来とはある意味真逆であり、いろいろな面で、意識の変換、方向の変換をしなければならぬことを痛感している。様々な人との関係がますます希薄になる中で、これからの子供たちがどのように育っていくのか心配である。   | 観光・交流 |
| 159 | 相双地域 | 意見発表者 | 施設の利用者が減少し、物の値段が低い時期があった。また、人と会う機会が減ったと感じる。   | 観光・交流 |
| 160 | 相双地域 | 意見発表者 | 消費者心理が大きく変わっている。商工業者は今まで同様ではなく、何かしらの対策を検討しなければ環境変化には対応できない。しかし、先行きの見通しが不透明であるので、慎重になり変化をすることには二の足を踏んでしまう。コロナ禍により物事の進展するスピードが速くなってしまった今、官が強い指導力を発揮し民を導くことが民の安心に繋がり、民が変化に対応していくのではないだろうか。                                 | 産業・雇用 |
| 161 | 相双地域 | 意見発表者 | 人との接触を少なくするため、「テレワーク」「リモートワーク」が未だに続いていると聞く。今後、このような働き方が定着するのであれば、相双地区に住みながらリモートで働く生活も現実味を帯びてきており、5Gを含めた通信インフラの強化を進めておくべきと考える。相双地区は「適疎」を目指すべきと考える。   | 産業・雇用 |
| 162 | 相双地域 | 意見発表者 | 世間では、「がんばるな、ニッポン」CMが話題になったニュースを見た。働き方改革とも相まって、がんばることの価値は昔ほど薄れている。今も川内村の人々のはのんびりしている。がんばるな川内村はもう今ここにある。このことは川内村の強みではないか。   | 産業・雇用 |
| 163 | 相双地域 | 意見発表者 | 従来はコミュニティビジネスのほとんどがフィジカル(直接、触れる)だったため、人との距離のとりかた・はかりかたが難しくなり、それが人間関係にも影響することになった。具体的には地域の良さである距離の近さが少なくなり、都市部のような横の繋がりの希薄さのようなものも出てきた。一方で、ITに強い都市部の企業や人に関しては、これまで都市部に出向いて行っていた商談事などがより一層オンライン化し、地域においても働けるといった感覚値が向上した。 | 産業・雇用 |
| 164 | 相双地域 | 意見発表者 | 震災を経験した親は、あの時の福島原発経験から判断している感じがあるが、震災の経験がない方が「家にいれるもの全てを消毒しないと気が済まない」など、敏感になりやすいのではないかと感じた。新地町では感染者が出ていないが、子どもを学校に通わせないと判断する親もいる。心の問題を抱えているのではないかと感じるほど感情の振幅が大きく、子どもだけではなく親もストレスを相談できるところがあると良いと感じる。                    | 地域づくり |

| No  | 地域   | 発言者   | 意見等  | 分野        |
|-----|------|-------|--|-----------|
| 165 | 相双地域 | 意見発表者 | O2O(オーツーオー)という言葉がある。Online to Offline オンラインで集客してオフラインで実施する事がそもその意味だが、もっとon/offを有効に使える手立てはあるだろう。民はもっと工夫して今までにないチャレンジをするだろうし、土壌づくりとして、県が率先垂範したら面白い。浪江町のある課ではYouTube配信を定期的に行なっているし、双葉町のふたばファンクラブは閉じたコミュニティでの情報発信を行っている。官は叩かれることを恐れているが、新しい取り組みは99%失敗と思わないとできない。試行錯誤の中にしか成功はない。いわなの郷で働き始めてすぐに感謝祭を提案し、さんざん叩かれ、未だに成功と言えるものはないが、県職員の方にも多くご参加頂いたことは大切な思い出でもある。 | 地域づくり     |
| 166 | 相双地域 | 意見発表者 | 相双の強みは「人」「自然」はじめたくさん転がっていて、課題はそれを活かしかねない私も含めた「人の意識」にあると考える。  | 地域づくり     |
| 167 | 相双地域 | 意見発表者 | 被災12市町村が横断的に何か一つの事に取り組むことができれば大きな強みになると考える。誰もが納得するビジョンで共通のミッションに挑んでこそバリューが発揮される。ビッグピクチャーを描き、強いメッセージを打ち出すには、共有課題である原発からの新しい地域づくりを強みに変換するしかないと思う。  | 地域づくり     |
| 168 | 相双地域 | 意見発表者 | 働き方改革においては、ワークライフバランスを取りにくいこれまでの現状から一変し、コロナ禍を受けての在宅ワーク増加やオンライン化の加速によって急転換したと考える。都市部に居続ける理由や首都圏で働き続ける理由が希薄となり、帰還者や移住者などの人の流れが起きそうなこのチャンスに、複数地域の居住や多拠点生活の動きをつくる取り組みを急ピッチで進める必要性を感じている。   | 定住        |
| 169 | 相双地域 | 意見発表者 | 移住について、田畑・山林があれば、ステイホームといえど、広い。また、土をいじることで元気にもなる。好機でもある。   | 定住        |
| 170 | 相双地域 | 意見発表者 | 移住した身としては「世間体の防波堤」を感じた。世間体を意識することで、感染拡大に一定の歯止めはかけられてきた。これは言い換えれば、「恐れから行動している」ということだった。恐れからの行動が、コロナ感染者への差別にもつながる。もともと、消費行動や都会への流入も恐れからだったのではないかと。とも。恐れは本能でもあるが、不必要なものは取り去りたい。   | 定住        |
| 171 | 相双地域 | 意見発表者 | 今後、コロナ以外の感染症が発生することが考えられることから、感染症対策、公衆衛生対策が重要になっていく中で、行革による保健所の統廃合が進み、機能が縮小している点も踏まえ、公衆衛生を担う新たな機能強化が必要である。また、施設では人手不足であり、職員の長期休みが増えると成り立たないことから、速やかに検査体制を充実していただきたい。   | 健康・医療・福祉  |
| 172 | 相双地域 | 意見発表者 | 相双地域においては、医療機関が脆弱であることから、一般の開業医で検査をすることはリスクが高く、難しいと考えられるため、専門の発熱外来を強化するか、感染症予防センターを設置するなど、一般診療と分けて検査体制の一本化を図るべきである。医師は当番制で確保するなり双葉郡に1か所設置が必要。  | 健康・医療・福祉  |
| 173 | 相双地域 | 意見発表者 | 子ども用のマスクやハンドソープなど手に入らず苦労した。(震災を思い出したという親も多かった。)学校が休校中は大変だと感じた。子どもが家にいても、仕事に行かなければならず、いつも以上のストレスがかかっていたように思う。週末には虫メガネを使った火おこしなど、いろんなことにチャレンジする期間になり家族として取り組んだ時間は増えたと思う。   | 結婚・出産・子育て |
| 174 | 相双地域 | 意見発表者 | 児童クラブの子どもたちは、消毒&マスク、距離を取るなどやらなければならないことが多い。学校では先生の言うことを聞けても、クラブの先生の言うことは聞けないぐらい、子どもたちの心にも余裕がない状態であると感じる。お友だちとも手を繋げない。マスクで笑っているのかどうかの判断もしづらい。消毒しないと気が済まない。マスクを付けてないとかだけで子ども同士言い合いになるなど、コミュニケーションの問題はとても大きい。気持ちを伝えあうこと、表現の仕方、大人がフォローする必要があると感じる。   | 結婚・出産・子育て |
| 175 | 相双地域 | 意見発表者 | しんちの子育て考え隊の活動のうち「こんな時は、どうする?」といった内容のものは、子どもたちも一緒に見せて行けるといいと思う。大人も悩むことはあるし、答えは一つではないという、学校ではやらないことを地域としてやっていけるのが一番だと思う。個々でやることへの限界も見えるが、小さな繋がりで、大きな繋がりを生み出せるようにインターネットなどを使い、そこにいるような感覚を生み出せるようにできたらいいと思う。   | 結婚・出産・子育て |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等  | 分野       |
|-----|-------|-------|--|----------|
| 176 | 相双地域  | 意見発表者 | 全世界的な感染症拡大により、物事が進展するスピードが速くなった。それは、IT、IOTが、感染症対策の有効手段であることに多くに人が気づき、簡単に活用し始めたことが大きい。しかし、これらの活用にあたっては環境整備が必要であるとともに使用者自身のモラルが大きく関わる。環境整備に対する支援及び知性・技術・道徳観など、人格向上のため教育の充実が必要と考える。 | 教育       |
| 177 | 相双地域  | 意見発表者 | 新地町は小中学校ではiPadが子どもたち一人一人に支給され、授業などに使用されている。休校中も、プリント学習以外にzoomの会議などで1時間程度授業をする学年もあった。理解度は対面授業の方が高いように思うが、コロナでも活かせるものがあることが強みだと感じる。  | 教育       |
| 178 | 相双地域  | 意見発表者 | 飲み会を自粛するようになり、よく眠れるようになった。コロナ禍も決して悪いことばかりではないと捉えており、今後もオンラインで済ませられることは増えると考えます。  | その他      |
| 179 | 相双地域  | 意見発表者 | 地域内自給自足が完結すれば、買い出しも必要もなくなり、人と会うときに多少遠出するくらいになる。その人に会う機会もオンラインで事足りるようになれば、つまり、オンラインで会うことに心理的障害さえなくなればいい。  | その他      |
| 180 | 相双地域  | 意見発表者 | 相馬市の一律10万円給付のスピード感の特筆に値する。台風19号での経験も生きて、民間にいち早く出した方が得策とも考えられる土壌・意識があったと推察する。   | その他      |
| 181 | 相双地域  | 意見発表者 | 原発事故後の状況、また、現在の双葉郡の地域は、今後の日本の将来を反映したものであり、さらに今回のコロナウイルス感染が、その状況を加速化したと考える。これからの福島県、各町村の取り組みが先駆的であり、今後のモデルケースになりうるのではないかと。  | その他      |
| 182 | いわき地域 | 意見発表者 | コロナウイルス関連で自粛があり、飲食店が休業に追い込まれたことによって、そこに納める農産物が行き先を失ってしまった。他の都道府県などにも送りつつ、地産地消で地元の方にも手にとってもらえる農産物の流通の仕方をバランスよく行っていくことが必要。   | 農林水産業    |
| 183 | いわき地域 | 意見発表者 | 地産地消や6次化、販路拡大はコロナの影響が大きく、3密を避けることと並行して行うことは難しい。農産物を見て触れて食べて共感してもらい、安定した購買層を開拓していくための機会がない状態で、PRや販路拡大を進めていく方法を考える必要がある。   | 農林水産業    |
| 184 | いわき地域 | 意見発表者 | 放射能の風評被害が出た際も、正しい知識を持っており、さほど恐れるものではないという人と、いわきは人が住むところではないという人がいた。今回のコロナも、正しい知識を持って正しい対処ができれば防いでいけるものだと思う。  | 産業・雇用    |
| 185 | いわき地域 | 意見発表者 | ウィズコロナの商売や、コロナと共生していくための方法についての勉強が1番大事。長くコロナと付き合っていくためには勉強をして、どう恐れずに商売をしていくかを学ばなければいけない。学んだことを伝え、リーダーシップをとっていくことが若手経済人として大事。   | 産業・雇用    |
| 186 | いわき地域 | 意見発表者 | 仕事の見直しについても徐々に動き始めている。これまでは訪問がすべての大前提だったが、今は70歳でもスマホ等を使えるため、これから先は、テレビ電話の機能を使いながらのオンライン訪問ができればよいと思っている。  | 健康・医療・福祉 |
| 187 | いわき地域 | 意見発表者 | 新しい時代に合った仕事のやり方を考えていかなければいけないと思っている。高齢者の家を訪問をした際の相談内容について、何らかの形で集約をし、職場に戻ってきた頃にはもう文字化されているというぐらいのことができないかと思っている。こういったことを業者の方と連携しながら、少しでも早く取り組んでいきたいと考えている。                       | 健康・医療・福祉 |
| 188 | いわき地域 | 意見発表者 | いわきに若者が定住しない理由の一つとして、町の魅力と、希望する仕事がないということがある。やりたいことをするためには東京に行かなければならない、という流れを変えていくことが必要。  | 定住       |
| 189 | いわき地域 | 意見発表者 | 3密を避ける際、広い場所を使うこと以外に、休日や休憩時間の取得等柔軟に対応することにより、時間的な広がりを持ってソーシャルディスタンスが取れないかと思っている。   | 地域づくり    |
| 190 | いわき地域 | 意見発表者 | 公園や道路上、歩道といった公共空間でマルシェをしたりテラス席を作ったりなど、民間でうまく活用できれば、密にならずににぎわいがある商業空間を作れるのではないかと考える。  | 地域づくり    |

| No  | 地域    | 発言者   | 意見等   | 分野    |
|-----|-------|-------|---|-------|
| 191 | いわき地域 | 意見発表者 | 大勢の人が1カ所に集まるイベントはなかなか今後開催しづらいと思う。日常的に、定期的に開催されるようなイベントや、小規模でいつでも気軽に参加できるようなイベントを開催するというように移行していくのがよいと考える。   | 観光・交流 |
| 192 | いわき地域 | 意見発表者 | 震災の影響で、地域の伝統的な祭りは衰退してきているが、今回のコロナでも祭りや伝統行事が中止になっている。祭りや伝統行事は、一度失われてしまうと回復できなかつたり、回復するにも非常にエネルギーがかかたりするので、積極的に守っていかなければいけないと思う。                                      | 地域づくり |
| 193 | いわき地域 | 意見発表者 | いわき市はコロナの前はイベントが多く、どのイベントも集客に苦勞するという状態だった。衰退していきそうな町の伝統文化や祭りを守っていくことで、その地域のコミュニティを守ることもつながり、観光資源にもなるため、重点的に取り組む必要がある。   | 観光・交流 |
| 194 | いわき地域 | 意見発表者 | 観光について、インバウンドはこれから何年も停滞することが予測されるが、逆に近場でお金を使うというマイクロツーリズムへ市場が動いている。県内での非日常体験や学びが提供できるような、魅力的な体験型の着地型観光を推進し提案をしていくことが必要。   | 観光・交流 |
| 195 | いわき地域 | 意見発表者 | 世界的な不況であり、災害が頻繁に起こる中、豊かで健康的に楽しく暮らしていくためには、環境に合わせて企業も個人も変化していくことが大事。変化するためには学びが非常に重要。人と人のつながりの中でも学ぶことや情報を得ることが多いと思うので、趣味やボランティア、地域の何かなど活動して周りの人とのつながりを作っておくことが非常に大切。 | 観光・交流 |
| 196 | いわき地域 | 意見発表者 | 今後も大きなイベントがなかなかできないため、例えば外で行う形を取ったり、テレビ会議のように電子機器を整備し使い方をレクチャーしたりするなど、少しでもコミュニティを維持するような環境づくりをしていかななくてはならないと考えている。  | 避難者支援 |
| 197 | いわき地域 | 意見発表者 | 健康づくりもコミュニケーションツールの一つ。県でも、実施する際には講師の方も含めて感染防止策を取ったり、人数を少数に分けて間隔を取りながら回数を分けて行ったりしていると思うが、復興公営住宅においてもそのような活動を試行錯誤しながら行っていきたい。   | 避難者支援 |
| 198 | いわき地域 | 意見発表者 | 新しい生活様式が順次定着し、これからのコロナとの向き合い方について動向を観察しながら活動を進めていくことがベストだと考えている。  | 避難者支援 |
| 199 | いわき地域 | 意見発表者 | 漁業における県内外のイベントでのPR活動が、コロナの影響で軒並み中止が続いているが、コロナ終息後には大いにPR活動をしていきたいと考えている。   | 農林水産業 |
| 200 | いわき地域 | 意見発表者 | いわきの場合は安心コロナお知らせシステムを導入しており、テイクアウトも今は保健所がルールを緩和している部分もある。引き続き県や市に後押ししてもらい、外に行けないのであれば、家でご飯を食べる際の補助等を引き続き行ってもらえると少しは違うのではないかと考える。                                    | 産業・雇用 |